

Vol.8

Passo a Passo



Devoted to the Development of Socio-Intelligence

SENSHU UNIVERSITY



専修大学21世紀ビジョン

社会知性の開発をめざす

専修大学は、1880年（明治13）に設立された私立専門学校（学校名「専修学校」）を基礎とし、時代の進展とともに発展してきました。創立当初の本学は、他校に先駆け経済科と法律科を併設し、経済学と法学の複合教育によって日本社会の近代化を担う人材を育成し、125年にわたり社会・経済の運営を担う実践的な人材を育んできました。

21世紀の今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題が山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。

こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。21世紀において本学は、社会知性開発大学としての道を歩むことになります。

社会知性（Socio-Intelligence）とは…

「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」である。

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

Passo a Passo

目 次

「学校」という経験.....	4
——専修大学教職課程協議会委員長 ネットワーク情報学部 教授 砂原 由和	
中世の世界をもとめて.....	5
——文学部 教授 亀井 明德	
特別寄稿 PISA2003ショック広まる	8
——経営学部 教授 嶺井 正也	
寄稿 はじめまして...ただいま	10
——経済学部 講師 角田 真紀子	
寄稿 これからの学校図書館と司書教諭	12
——文学部 講師 野口 武悟	
教職課程	
卒業生から	16
教員採用試験体験記	21
教育実習を終えて	26
介護等の体験を終えて	34
司書・司書教諭課程	
「児童サービス論」ノート―「子どもの本」と出会う手がかりに―	36
——文学部 兼任講師 長谷川 幸男	
卒業生から	38
図書館実習を終えて	39
学芸員課程	
日本文化史の講義を担当して思うこと	42
——文学部 教授 青木 美智男	
卒業生から	44
博物館実習を終えて	45
データ編	
平成17年度資格課程履修者数	48
平成17年度教員免許状取得状況一覧	49
平成17年度実習先一覧（教育実習）.....	50
平成17年度実習先一覧（図書館実習）.....	53
平成17年度実習先一覧（博物館館務実習）.....	53
主な就職先一覧（教職）.....	54
主な就職先一覧（司書・司書教諭）.....	56
主な就職先一覧（学芸員）.....	56
平成17年度資格課程年間行事表	57
平成17年度教職公開講座開催結果	58
平成17年度教職特別講座開催結果	59
平成17年度第14回専修大学英語科教育研究会開催結果	59
平成17年度司書課程就職（進路）相談会開催結果	59
平成17年度資格課程教員紹介	60

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて!!

教員を目指す
あなたへの



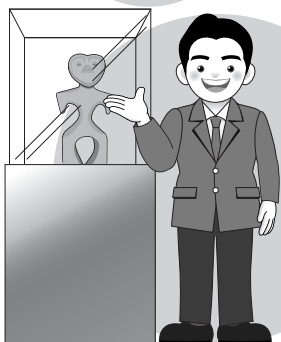
教職課程

本が好き
図書館で
働きたいなら…



司書課程
司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら…



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
4月上旬



教職課程履修登録

1～4年次

4月上旬

教職公開講座
(希望者)

1～4年次

10月頃

教職特別講座
(希望者)

1～4年次

3月頃

司書教諭課程履修登録

1～4年次

4月上旬

司書課程履修登録

1～4年次

4月上旬

司書課程学生相談会
(希望者)

1～4年次

11月～1月頃

学芸員課程履修登録

1～4年次

4月上旬



介護等の体験開始

3・4年次
(中学校教諭免許状取得希望者)

6月下旬
～
2月初旬

教育実習

4年次
5月～11月

教員免許状の交付

卒業時
(事前に申請した者)

3月

16
ページ

学校図書館 司書教諭講習 修了証書の交付

卒業時
(事前に申請した者)

36
ページ

図書館実習 (希望者)

4年次
8月～12月

司書課程単位習得 証明書の申請 および交付

卒業後(希望者)

館務実習

3・4年次
7月～9月

学芸員資格取得 証明書

卒業時
(事前に申請した者)

42
ページ

「学校」という経験

専修大学教職課程協議会委員長 ネットワーク情報学部 教授 砂原 由和

今年の夏、久しぶりに帰省した私は、三十数年ぶりに、中学時代の同窓生数名とともに当時の恩師にお会いすることができた。先生はすでに現役を退かれており、「もうお婆さんですよ」とおっしゃっていたが、とんでもない。かつてと全く変わらぬ潑刺とした姿で、他の先生方や同級生たちの消息について、そして現在のご自身の生活について、いきいきと話してくださった。そんな先生は、今でも当時と同じように、私たちの生き方のお手本だった。私は改めて、すばらしい先生に巡り会い、すばらしい中学生生活を送ることができたことに感謝した。

正直に告白すると、かつて私は「学校」という場所にそれほど深い関心を持っていたわけではなかった。確かに私は、故郷近くの「教育大学」に入学したが、その動機は教育学を学びたいからでも、教師になりたいからでもなく、ただ、教育大学に籍を置けば、当時興味を持っていた「工学」と「芸術」を同時に学ぶことができるだろうと思ったからだ。

その後私は上京し、大学院で教育学を学ぶことになったが、それでもなお、学校教育が私の関心の中核を占めることはなかった。私が専攻したのは教育哲学であり、

私の関心はもっぱら、人間にとって科学技術はいかなる意味を持つのか、という問題領域に向いていた。もちろん、学校が社会的に大切な場所であるという認識は持っていたが、私はどうしてもそれを自分自身の問題として引き受けることができなかったのである。学校に対して一定の距離を感じてしまうこの感覚は、じつのところ、本学で教職課程を担当するようになってからも消えることはなく、そのことについて悩んだこともあった。

しかし、私自身の子どもが学齢期に達した頃から、学校は私にとっても身近な存在になり、学校に関して考えることも多くなってきた。また私自身も年を重ね、中学校や高校の同窓生と会う機会も次第に増えてきた。このような時の流れの中で改めて気付いたことは、じつは私は、とてもめぐまれた学校生活を送ってきたということであり、そういった学校の経験がいまでも私を支えている、ということだった。

そしてそれと同時に分かってきたことは、学校について考えるためには、学校と直接関係している時期のみを考えるだけでは不十分で、その学校に関係した人々のその後の人生全体を視野に入れなく

てはならないのではないか、ということだった。

かつての私は、学校教育を狭く考えてしまい、そこでは、明日の授業のために必要な板書や発問の仕方といった、きわめて限定的なことがらのみが問題になっているのだと、勝手に考えていた。もちろん、それらのことが無意味なわけではない。ただ、そういった具体的な方法の持つ本当の意味は、学校を起点として広がる社会や人生の全体を視野に入れることによって、はじめて見いだすことができるのではないだろうか。そう考えることで、私は次第に、私なりの観点から学校という問題領域に係わっていくことができるようになってきた。

願わくは、教職を目指す学生諸君も、学校を狭く限定的にとらえることなく、人間の一生の中に位置づけて考えてみてほしい。私の恩師は、教職を退いた後も再び学生となって陶芸を学び（この恩師は理科の先生だった！）、なおかついまでも私の教師であり続けている。今も当時と変わらずに、私たちの前を歩いて行く恩師を見送りながら、私はそんなことを思った。

中世的世界をもとめて

文学部 教授 亀井 明德

1. カッセル・ヘッセン州立博物館の青瓷

ドイツのカッセルとハーメルンは、ヴェーゼル川沿いにひらけた中世の面影をのこした街である。フランクフルト空港からICE特急で、1時間半、田園地帯を北上する。中心部は、ヴィルヘルムスハー駅から市電で10分ほどはなれており、これもドイツにしばしばある配置である。市電の24時間チケットを購入しておけば、街の大部分にスムーズに行くことができる。グリム兄弟が30年間、ここに住んで仕事をしていたので、その博物館もある。この兄弟は、童話作家のような印象をうけるが、ほんとうは、ドイツ各地に伝わっている伝説、メルヘンを聞き取り、文字に記録した研究者である。その彫像からは、いかにも誠実で、質素な学者の面影がうかがわれる。

ヘッセン州立博物館は、その彫像の対面にある黄色い建物である。ここにかねてから見たいと思い続けていた1個の青瓷碗が展示されている。閑散とした受付で、その青瓷のことを尋ねると、すぐに3階にありますという返事に、すこしばかり驚き、そんなに有名なものなのであるのか？

この博物館は、地域文化の総合的な文化財を集めているようで、



小学生の団体が、日本とおなじように、ノートとエンピツをもたされて、学芸員から説明を聞かされていた。どこの国の小学生も同じで、うしろのほうでは、となりの友達と、エンピツでいたずらをしていて、先生についに発見され、立たされていた。

3階までのぼって青瓷碗のケースをのぞいていると、若い女性の学芸員が近づいてきて、話しかけてきた。下の受付から奇妙な日本人がきているという連絡があったらしい。その青瓷碗は中国の浙江省竜泉窯で、元代につくられたものであり、とくに優れた作品ではなく、平凡でどこにでもある青瓷である。

ところが、碗の上に金属製の王冠のようなものがはめ込まれており、そこに紋章がついている。こうした例は他にもあり、メタル・マウントされた陶磁器とよばれている。これは、中世ヘッセン地方の領主の紋章で、その年代は1434-53年である。陶磁器の年代をきめるのは、そんなに容易なことではなく、このような年代が判明している資料、紀年銘資料は大切であり、こういうものを世界中から探しもとめて、たくさん蓄えておいて、論をくみたてる仕事は、それなりに楽しいが、エンドレスに近いことをしているようである。

2. ハーメルンの笛吹き男

阿部謹也氏の『ハーメルンの笛吹き男—伝説とその世界』という名著をお読みになった方も多いであろう。1284年6月26日、夏至の日、ヴェーゼル川沿いの小さな街に、異様な風体の一人の男があらわれ、笛を吹きながら133人の子供たちを街中からあつめ、外につれだし、忽然として姿をけしてしまう。グリム童話にも採録され、有名な伝説となったが、これは昔

話ではなく、ほんとうにあった歴史的事実であることを、阿部氏は論証する。



阿部氏は、こうした遍歴芸人、ネズミ捕り男はもとより、乞食の描写、寡婦となってしまった女性の生き方、身体に障害をもつ人々など、中世社会のなかで、差別の眼を向けられたであろう社会的な弱者を、底辺にみずからの視点をさだめて、描写している。

石牟礼道子氏は「氏の文章が、知識の集成にとどまらぬ泉のような明晰さをそなえているのは、人生のある境域をくぐり抜けた位相から出てきていることはたしかである。学問も人間の表現である以上、この世の深淵にみずから立ち上ることを供犠としてさし出す描写力が問われている」と評している(石牟礼道子解説「泉のような明晰」阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男』ちくま文庫720, pp.305-315, 筑摩書房, 1988)。日本中世史研究にもすぐれた研究業績があるのかもしれないが、阿部氏の著作ほど、魅力的な作品はすくない。

カッセルから北にハノーバーへて、ローカル線経由2時間くらいで、ハーメルンの街に到着できる。城壁は環状道路に変化してしまっただが、街並みは復原され、中世の面影をのこしている。笛吹き

男は、ヴェーゼル川の橋をわたって、中世の領主であるミュンスタ一教会をとおり、オールド市場から、現在は「舞楽禁制通り」とよばれている細い道をとおりながら、笛の音色についてきた子供たちをひきつれ、東門からいずこかへ消えていった。のちにハンガリーでその子供たちが発見されたという話もある。

私は、笛吹き男がたどった道のできる限り忠実に歩いてみた。15世紀にその伝説がステンドグラスとしてのこっていたマルクト教会や博物館にも入り、その感触だけであるが、浸ることができた。こうしたことは、比較のおおきな収穫に実を結ぶこともある。実体験があるか、ないか、実物をみたか、見ないかは、考えに大きな影響をもつのではなからうか。

ヨーロッパ中世と、日本中世とは、異なることも多いのであろうが、異質のとなりに同質が存在している。5月の北部ドイツはかなり汗ばむ気候であり、阿部氏がこもっていたゲッティンゲン大学のキャンパスを散歩し、歩かなくてはモノは見えてこないと思う。

3. 中国東北部に旅して

7月のおわりに、吉林省の長春市にある吉林大学で、「遼・金・蒙元期都市国際研究会」に出席し、内モンゴル地域の元代青花瓷について、研究発表をした。こうした研究は、私のような外国人研究者にとって、情報が絶対的に不足しており、研究会で発表すると、他にも事例があるというような教示がもたらされる。この会に出席した目的のひとつは、この大学に付置されている「边疆考古学研究中心」に若手の陶瓷研究者がおり、その方と直接お目にかかり、中国東北部から内外モンゴルにかけての陶瓷器研究をいかにすすめるこ

とが可能かを相談することにあった。

東北部の大学には、日本から大学院生クラスの方が、留学しており、いずれもたくみに中国語を駆使している。私を助けてくれたのは、徳島大学と龍谷大学からきている女子学生であり、契丹や遼時代の考古学で、修士論文を書こうという意欲をにじませている院生であった。おかげで、すぐれた中国陶瓷研究者との意思疎通は、完璧にでき、来年度から共同研究が出発できるところに到達した。それにつけても、専修大学の学生が、もっと国外に雄飛してほしい。私が行くところは、へんぴな場所なので、あまり本学の方に遭遇したことがなく、さびしい思いをする。留学は、将来の展望が開けてくるかもしれないし、開かないかもしれないが、飛翔しなければ、何事もおきない。

長春から北に向かい、土城跡を踏査することができた。遼時代の大きいものと1辺が1キロ以上で、高い土盛りが方形にめぐられ、そのなかに、宮殿・官衙・工房などの都市が形成されている。現在は、土城のみがよくのこり、内部は土壇状の高まりだけがみえている。これは、ヨーロッパ中世の都市の構造と類似した要素がかなりある。私は、土城の研究者ではないが、いくつかの陶瓷器の破片が採集できる。「城を見ずして下」ばかり見ていると、ひやかされているが、陶瓷器のもつ意義は最大に重要である。例えば、土城の年代決定、例えば、窯からの流通ルート of 解明など、これほど有力な考古資料はほかにない。

東北部の端にあるハルピン郊外で、金の上

京府跡の巨大な土城の一部を見学し、発掘調査では、遺構がよく残っていることがわかったが、全容をつかむには少なくとも100年はかかるであろう。近くに出土品などを展示する立派な博物館がつくられている。ハルピンの街の中心には、1900年に建てられた黒龍江省博物館がある。クラシックな展示であるが、ここにハルピン市顧郷屯出土の中原産の唐三彩陶の小壺が1点展示されていた。この地域の三彩陶は、渤海三彩陶との区別が困難であり、同行していたロシア極東アカデミーのゲルマン博士も中原産の可能性を認めた。数年来、彼女とは論敵になり、意見がことなることが多いが、彼女は、このハルピンから鉄道でウラジオにもどる最後の場で、めずらしく意見の一致をみた。これが中原産の三彩陶とするならば、従来は遼寧省までの分布の北限が、大幅にのびたことになる。

昨年からスタートさせたモンゴル・カラコルム遺跡出土の陶瓷器について、いよいよ、この原稿を出してウランバートルの国立歴史民族博物館に出発する。カラコルムは、オゴディが最初につくった元の首都である。1948年に、ソ連の研究者によって調査され、報告書も刊行されているが、遺漏がおおく、もう一度陶瓷器だけを整理しなおそうと、モンゴル側と協議し、専修大学チームがこれを3



年計画で実施することになった。

大学院生を中心にして、実測調査を10日間実施する。調査といっても、実際には地味な、あるいはねくらそのものであり、1日中、博物館の地下室にこもり、黙々と実測をする作業である。最終日に、片道6時間の草原を疾駆してカラコルムの現場にいき、ゲルにとまり、毒草のおおい遺跡を踏査し、夜は、運がよければ満天の星空のもとで馬頭琴のどこか物寂しい音色に聴き入るおまけがある。

4. 喜界島の伝説にいども

7月の初め、台風が宮古島付近を北上しているとき、私は、鹿児島空港から小型機で、横風と突風で着陸できないかもしれないという喜界空港に無事到着した。この島の小野津という海浜の集落の小さな祠に、陶瓷器3個が伝世している。これらを町の文化財に指定するので、調査をおこなった。3個のうち、1個は須恵器広口瓶であり、薩摩の金峰町中岳山麓の窯の産品であろう。他の2個は、中国産で、ひとつは福建省の褐釉陶器である。他の一は、浙江省の有名な越州窯青瓷の水注である。注口と把手の一部がかけているが、胴部の対面に、花の文様が大柄に刻まれており、オリーブ・グリーンといわれる釉薬の色もよく、いままでわが国から発見された同種品のなかで、抜群にすぐれた製品である。文句なしに指定品にする価値が十分すぎるほどある。これら3点は、奇妙なことに、いずれも1100年前後につくられた共通点をもっている。

私が空港から中央公民館に案内されて陶瓷器を調べていた机の上に、『五つのカメ』という絵本が置かれていた。むかし、琉球に11歳を頭に5人の子供をもった母親が、子供を外であそばせて、上納する

ために絹をおっていた。子供たちは、海岸で舟にのってあそび、母親は心配なのでそれぞれに、ひもをつけたカメをもたせて、ときどき紐を引っ張り確かめていた。ところが、機織に熱中するあまり、ふと気がついたとき、子供たちからの反応が途切れていた。血相をかえて海をさがしもとめたが、5人の子供たちの姿は、宵闇のなかにきえてしまっていた。

それからしばらくしたのち、喜界島の小野津海岸にその5人の子供がたどりついたが、大きなヤドカリに舌をかみ切られて、5人とも亡くなってしまう。そこで、埋葬してカメをその上において手厚く弔ってやった。その五つのカメというのが、2個はすでに盗難にあっていたが、私が調査したものである。この伝説は、小野津集落に伝わり、地元の学校の先生であった三井喜禎氏が収録し『喜界島今古物語』として50年ほど前に公刊した。それに基づいて、正本洋子さんが自費で絵本につくり、全島の児童・生徒全員に寄贈したことによって、今ではこの島で知らない人はいない話となった。作者の正本さんにお目にかかり、直接お話をうかがい、亡父が大切にされていた『喜界島今古物語』をいただいた。

最近、喜界島は発掘調査がすすみ、いままで遺跡は少ないとされてきたが、状況は一変し、平安時代から官衙とみられる大型建物が、室町時代までつづいていること、子供などを埋葬した土坑墓がいくつか発見され、南島における考古学と歴史学の通説らしきものに変更をせまっている。「五つのカメ」伝説は、そのキーの一つとなる。伝説には、あとの時代につけ加わる話があるが、それを引き剥がすと、ほんとうの姿があらわれるが、



それを私はつぎのように考えた。

1100年ころ、奄美大島の東海岸の集落に5人の子供をもった母親がおり、上納する布を織っていたが、子供が行方不明になり、喜界島小野津海岸にたどりついたが、まもなく、5人とも急死する。そこで、この島の為政者が、たたりを恐れて、手厚く埋葬し、その上に、為政者がもっていた特上の陶瓷器をおき、水を飲ませ、花をさして供養した。そのカメ、正確には瓶であるが、私が調べたのは、まさにこれであり、この伝説は史実である。

この島の為政者は、9世紀の中頃には、南島統治のために、多嶺嶋から移動しており、城久遺跡群では、その官衙建物がつぎからつぎに発見されており、南島ではすくない優れた中国陶瓷器が発見されている。従来、「きかいしま」というと、俊寛僧都の鬼界島＝硫黄島と恣意的に解釈される傾向があったが、史料をすなおに読むと、貴海島＝貴賀井嶋＝貴駕島＝喜界島である。

賢明な読者は、この伝説研究が、『ハーメルンの笛吹き男』の阿部氏の考えと、共通するものがあると喝破されるかもしれない。そういう錯覚をいただいただけで無上の光栄である。私がやっているのは、中国陶瓷器研究ではなく、中世の人の生きざまを見つめようとしているのかもしれない。

PISA2003ショック広まる

経営学部 教授 嶺井 正也

転換するデンマークの教育

2006年8月の末、デンマークを訪問した。デンマークについて、日本でよく知られているのは、チボリ公園、アンデルセン、豚肉といったところだろうか。そうそうデンマーク体操というものもある。

訪問理由は、OECDが行ったPISA2000、PISA2003の結果が思わしくなかったということで教育改革が進んでいるので、その現状を知りたい、ということであった。訪問地は首都のコペンハーゲンではなく、アンデルセンが生まれ育ったオーデンセ市（コミュン）。フン島のほぼ中央に位置する町である。そこにある県立養護学校1校、市立の小中一貫の国民学校（フォルケホイスコーレ）2校そしてオーデンセ市の、日本でいえば、議会の文教委員会と教育委員会が一体となったような委員会の委員長を訪問し、インタビューを試みた。

そこで明らかになったのは、地方分権をより徹底しようとしていること（県立養護学校の市立移管）、英語をこれまでの4年生からでなく3年生から教えること、夏休みを短くすること（生徒は8週間→6週間、教職員は6週間→4週間）、移民の子どもへのデンマーク語の徹底などの他に、明らかにPISA対応と思われる措置が進みつつあった。それは成績評価をEU標準に変えることと、全国一斉学力テストの実施、9年生の義務教育終了テストへのPISA対応科目の導入であった。

総体としては、グローバルな経済競争に向けた人材育成を目的とする新自由主義的教育政策の推進という性格が強い。日本の外務省が、中道右派政権の下「グローバルゼーションの中でデンマークを競

争力のある「知識社会」にすることを目指し、2010年までに100億クローネを投入し、教育・研究・イノベーション・ベンチャーを強化し、同分野での先進社会を作っていくとの新たな目標を掲げている」と紹介していることが実感することができた。

しかし、デンマーク教育の良さが「子どもが学校で楽しく過ごしているところ」と評価する教育関係者はこれらの改革にかなり批判的であった。二人の国民学校長や教員組合の支部長もそうであった。PISAでトップの成績を収めているフィンランドと比べ、教員養成がまだ大学段階では行われてはいないこと（フィンランドは修士課程）、教授方法がまだ一斉授業的であることなど、改革すべき点があることは感じられたが、政府が推進する政策、とくにテストで競争をあおるような施策が具体化されていくと、素直で人なつっこい子どもたちの笑顔を消してしまうのではないかと危惧を覚えた。

TUAC&EIの対応

OECDのPISA（Programme for International Student Assessment）すなわち国際学習到達度調査は2006年度で3回目を迎え、いま、その結果が実施、集約されつつある。今回は理科中心となっているが、2009年から2015年にかけてもう一サイクル実施されることになっている。2009年からほぼ小学校終了段階にあたる9歳児も対象として現在対象となっている15歳までの変化も見るという。

このPISAが日本の教育政策にかなり影響を及ぼしていることは周知の通りであるが、先にみたデンマーク、ドイツはPISA2000から、

そしてPISA2003からはイタリアやベルギーなどにも影響が及びつつある。ある意味で、部分的ではあるが、学習到達度の標準化がまさにグローバルに進む様相を示していよう。これまで参加していない中国もかなりPISAには注目している。

各国の教育政策に対する大きな要因になりつつあるPISAに対して、各国の労働団体の意見を集約してOECDに意見を述べるTUAC（Trade Union Advisory Committeeのこと。経営者団体の委員会はBIAC）がこの9月5日にOECD本部の会議室で対応会議を開催した。OECD加盟諸国以外からも多数参加。TUACの教育部会は教育インタナショナル（EI）の中のOECD加盟諸国の教員組合が中心になっているので、フランス、ドイツ、イングランド、フィンランドなどが活発に意見を述べていた。

なかでも興味深かったのは、共にドイツ人である、OECDの教育政策実施機関である教育局のバーバラ・イシンガー局長とその下でPISAの実質的責任者であるアンドレアス・シュライヒャー専門官と、フランスの複数の教員組合代表との間で激しい議論が展開されたことである。議論の内容は、PISAはあくまで望ましい教育政策の立案・実施に科学的データをだすためのツールであるとするOECD側と、PISAには教育を経済成長の手段にし、グローバル経済競争を煽る、ある種のイデオロギーが隠されているとするフランス教員組合側とのまさにイデオロギー対立であった。

他の教員組合の立場はさまざまで、PISAに政府がのってこないのに困っている、PISA結果は教育費確保に有効である、という意見も

出されたが、共通していたのは、点数をだしてランク付けをする今のやり方は極めて問題が多い、とする点であった。

日本もその典型例であるが、読解リテラシー、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決リテラシー（2003年から追加）に関して、ジェンダー、家族的背景、学校内格差、学校間格差など多様な視点からのデータ分析を踏まえての政策形成ではなく、たんに順

位を上げるためにだけこれらを利用しようとする政府の対応やマスコミの報道の仕方を批判する点では一致していた。

シュライヒャー自身、こうした対応については危惧の念を示し、2007年12月上旬の結果分析公表の仕方を工夫したい、と話していた。

今回の会議では、ヨーロッパ諸国はOECD→EU委員会→各国政府

という政策形成のメカニズムができつつあるのではないかと、この懸念もEU諸国の教員組合からだされたが、筆者の国内研究先である国民教育文化総合研究所で開催しているPISA関連フォーラムから考えると、PISAはより広い範囲の国々の教育政策に影響を与えて行くように感じられる。筆者はこれを「PISAショック」と名付けたが、それは来年結果公表のPISA2006でさらに大きくなりそうである。



＜オーデンセ市郊外の国民学校 6 年生のクラス・昼休み時間＞

はじめまして...ただいま

経済学部 講師 角田 真紀子

はじめまして。

2006年度より専修大学経済学部講師として着任しました角田真紀子です。専修大学経済学部経済学科、日本女子大学科目等履修生を経て、東京大学大学院教育学研究科修士課程・博士課程に入学・中退し、同助手として3年間勤務しました。他に、東京女子大学学生相談室カウンセラー、台東区立金曽木小学校カウンセラー、東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室助手（臨床心理士）、東京大学教育学部附属中等教育学校カウンセラー・同講師、東京衛生学園専門学校カウンセラーを経験しています。本学での担当科目は、「発達・学習心理学」「スクールカウンセリング」「教育実習Ⅰ～Ⅲ」です。中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員免許を有する臨床心理士です。

なぜこの道へ？

こうお話すると、たいてい「何で経済学部から心理？」と聞かれますのでそこから書きたいと思います。私は、とにかく教師になりたいくて専修大学経済学部に入りました。逆に言うと、教職課程を取れない学部であれば入学していませんでした。経済学部を選んだ動機は単純なので、ここに書くのはやめておきます。

私にとって、経済学の授業は新鮮で興味深いものでした。ただ、そこで社会科および地理歴史の専門知識を同時に習得していくのは、相当な努力を必要とすることでした。一方、塾の講師や教育実習、そして小・中・高・大の授業を通してずっと気になっていたのは、教師の言葉の使い方と対応でした。先生のある一言が、自分を嬉しくしたり、落ち込ませる。人生が変

わるきっかけになることもありま
す。では、自分が教師の立場とな
って、教師として教壇に立って話
すときには何をどう話せるだろう
か、より効果的な教育的対話とい
うのはどういうものか。それを考
えるには時間も知識も足りていな
いのではないかと。そう考えまし
た。そこで、これをより深く研究す
るために大学院への進学を決めま
した。教育学そのものでなく、教育
心理学（実質的には臨床心理学）
を選んだのは、子どもと実際にか
かわりながら実践を通して学ぶこ
とができると考えたからです。当
時は、近い将来に教職課程の科目
のなかにカウンセリング関係の科
目が新設されるという状況だった
ので、将来的には、教職課程の教
員になってこの科目を担当して学
生と一緒に考えられたらいいなあ
、と思っていました。私は熱烈で過
激な愛校心をもっていただけでは
ありませんでしたが、漠然と、い
つか母校で教えられたらいいなあ
、とも思っていました。

教職のなかでの「心理学」

したがって、私にとっての臨床
心理学は手段にすぎません。心理
学という手法を使って、子どもの
心について考え、教育的な対話を
模索し、教育現場で活用するのが
目的でした。

しかしながら、こういったスタ
ンスでの研究は、初学者にとっては
難しいものでした。専修大学で
ばっちり仕込んできた「教師より
（しかも経済学的）」のスタンス
（本筋から外れますが、専修大学の
教職課程プログラムは素晴らしい
です。今の立場で申し上げると手
前味噌になりますが。）に、新しく
「臨床心理学より」のスタンスを形
成するのですから。心理臨床の現

場と、教育現場に足場を置きなが
らの研究というわけです。それは、
まだ歩けない乳児がローラースケ
ートを履いて走ろうとしているよ
うなものでした。

「2色のワラジ」功を奏する。

そのような姿勢で臨んだ研究活
動は、混乱して大変でした。しか
しながら、博士課程に入るとだい
ぶ落ち着いてきました。臨床心理
士には、職場がいくつかありますが
、私の場合は、「教育現場で臨床
をやりたい」ということや、教員
免許保持者であることが周囲に知
られていたので、附属中等教育学
校のカウンセラーと講師をすること
ができました。特に講師は高大
連携で、高校3年生に心理学（学
校設定科目「総合心理入門」）を
T.T.で教えるという、とても挑戦
的でわくわくする授業です。教員
免許を持っている臨床心理学専攻
者は多くはないですが、それを必
要とされる職場はもっとないので、
私が教壇に立てることはラッキー
なことでした。

授業では、3～4人のスタッフと
30人前後の生徒がグループワーク
を週1回2時間行います。そこは、
現場。怒りもあれば涙もある。特
に心理学に関連する授業ですから、
生徒の反応もさまざま。そこで教
師の顔とスクールカウンセラーの
顔を併せ持つことは、はっきり言
ってとてもしんどいです。自分が
何者かさえ分からなくなってしま
う。でも、この「2足」のワラジ
を「2色」に変えることができる
ようになり、だんだん慣れてきま
した。試行錯誤のなかで、授業内
で気づいたところを授業内でヘル
プして、足りなければ外でフォロ
ーする、スタッフのなかで役割を
うまく受け渡していく、そんな形

態ができあがりました。

グループワークに注目して

大学の授業でもそうですが、私はグループワークを活用しています。実は、私は「グループ」が苦手です。でもなぜグループワークか。その答えを簡単に言うと、そのほうがメリットが多いからです。教師という仕事も、スクールカウンセラーという仕事も、その生徒の「能力」を高めるよう支援する、という点では同じ目的を持っています。そして、その途上で、生徒の「鏡」や「壁」になることがあります。生徒は感情や思考をあらゆる形で教師に投げてきます。それを一人で対応することは不可能ではないと思います。しかし、30人、40人の生徒が一斉にあらゆる角度で直球や変化球を投げてきたら、どうやって受けますか。もしすべて受けたとしても、どうやって返球したらよいでしょうか。

グループワークでは、球は複数になりますので、その対応は実際にはより複雑で難しくなります。しかし、それは練習によって対応可能になってきます。また、一人では取りきれない、読みきれないボールを他の人が受けてくれると

いうこと、うまい受け合い方、なども学習することができます。「発達・学習心理学」では、自分の発達や学習プロセスについて自分で振り返っていただきたいし、「スクールカウンセリング」では、自分がどのような反応をするのかをまず確認していただきたい。これは、個人学習では無理です。もしも、人見知りをする、グループが苦手、という人がいたら（たくさんいます）、「いつもの自分」は脇に置いて、「教師志望者としての自分」で活動してみてください。これは、ロールプレイという技法でもありますが、自分が知っている自分ではなく違う人になったつもりでやってみるということは、生徒理解の方法の学習にもなります。もちろん、心理学関係の授業では、自分と向き合うことが出てくるために、「今日はどうしても嫌だ」ということはあるでしょう。その時は、強要はしません。ただ、その時は「共にいる」ということを学んでいただけたらいいなと思っています。これは、実はとても高い能力が必要です。

迷いのなかで 変化し続けること 変化できますか。

最後に、次の詩を紹介して終わ

ります。

過去と未来のはざまの暮色に、さなぎの中で世界がさまざまに変化する。

ある人々は、昔を振り返って、失った魔法の世界を懐かしむ。

ある人々は、喜んで、混沌とした過去にさよならを告げる。

ある人々は、あらゆる勇気をかき集めて、未来を臨む。

ある人々は、変化の可能性に胸を躍らせる。

そしてある人々は、石のように座りこんで、どちらの道も見ようとしない。

(マリオン・ウッドマン「処女懐胎」)

変化すること（たとえばワーク）に恐れをもっていてもいいのです。それでも変化し（続け）たいと思いますか。個人的にはその気持ちが大事だと思います。ここから願ったこと（変化）は、叶ってしまいます。ですから、どうぞ慎重に。そして、一步一步、時に大きく飛躍しながら、夢に向かって進んでほしいと思います。私は本学で、そのお手伝いをしていきますので是非活用してください。よろしくお願いします。



大学卒業時の私（一番左）



今の私

これからの学校図書館と司書教諭

文学部 講師 野口 武悟

1. はじめに

資格課程を履修している学生のみなさん、はじめまして。私は、今年（平成18年）の4月に司書課程・司書教諭課程の担当教員として本学に着任いたしました。「図書館資料論」や「学校経営と学校図書館」などの科目を担当しています。このほか、文学部に所属していますので、情報メディア研究（テーマ学習）の専門科目やゼミナールも担当しています。

専門は、図書館情報学です。もう少し詳しく説明すると、図書館の利用に障害や困難を抱えている人に対する図書館サービスの歴史やあり方を研究しています。

さて、図書館というと、みなさんは、どんな図書館を思い浮かべるでしょうか。おそらく、本学の図書館（大学図書館）や地域の図書館（公共図書館）を思い浮かべる人が多いことでしょう。あるいは、研究熱心な人は、国立国会図書館を思い浮かべるかもしれません。こうした図書館の一種類に、みなさんが通った小学校、中学校、高等学校などの学校内に置かれている図書館（学校図書館）があります。近年、図書館情報学の研究では、この学校図書館への関心が高まってきています。その理由は、のちほど書くことにしますが、本稿では、この学校図書館について分かりやすく紹介したいと思います。

2. 学校図書館は「図書館」なのか

学校図書館という用語は、一般的にはあまり馴染みがないようです。以前、高校時代の友人に久しぶりに会ったとき、学校図書館の研究をしているといっても分かってもらえませんでした。友人曰く、“学校に「図書室」はあったけど、

「図書館」なんてなかった”というのです。その友人にしてみると、「図書館」というのは、「館」という字の如く、大きな独立した建物があって、そこに何十万冊という蔵書がぎっしり詰まった施設というイメージなのだそうです。これを読んでいるみなさんのなかにも、同じようなイメージを持っている人がいるのではないのでしょうか。

確かに、このイメージからすれば、学校内の1つの教室が割り当てられたに過ぎない「図書室」を「図書館」と呼ぶことに違和感があるかもしれません。しかし、「図書館」という用語を図書館情報学や教育学で用いる場合には、単にその施設を指すだけではなく、その機能を指すのです。つまり、施設の規模の大小にかかわらず、図書館としての機能をもつものはすべて「図書館」なのです。

では、図書館の機能とは、何でしょうか。基本的には、資料や情報メディアの収集、整理、保存、提供とそれに付随する各種のサービス活動の実施ということになるでしょう。学校の「図書室」も、こうした図書館の機能を果たしているの、小さいながらも立派な「図書館」といえるわけです。

なお、図書館の機能を果たすためには、次の4つの要素がすべて揃っている必要があります。すなわち、(1) 施設・設備、(2) 資料・情報メディア、(3) 職員、(4) 利用者の4つです。これを学校図書館に当てはめれば、(1)「図書室」、(2) 資料・情報メディア、(3) 司書教諭などの担当教職員、(4) 児童生徒及び教職員、ということになります。

3. 学校図書館の機能

学校図書館については、「学校図

書館法」という法律に詳しく規定されています。学校の中には、体育館や保健室などさまざまな特別教室がありますが、学校図書館についてのみ単独の法律が存在します。それは、この法律ができた1950年代、学校教育のなかで学校図書館という機能がとりわけ重視されていたからに他なりません。図書館の機能についてはすでに述べましたが、この法律の中でも、学校図書館の機能に関する規定があります。具体的には、「図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによつて、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること」と規定されています。この規定の後半部分、すなわち、「学校の教育課程の展開に寄与する」と「児童又は生徒の健全な教養を育成すること」が、学校図書館に求められるオリジナルな機能ということができるでしょう。

「学校の教育課程の展開に寄与する」とは、具体的には、学校図書館の資料や情報メディアを各教科・領域の学習指導（例えば、「調べ学習」）などで活用できるようにする取り組みです。学習・情報センター機能と呼ばれることもあります。また、「児童又は生徒の健全な教養を育成する」ためには、児童生徒の読書の支援（読書指導や読書相談など）や活動（読み聞かせ、ブックトークなど）が重要になってきます。こちらは、読書センター機能と呼ばれています。

ところが、こうしたオリジナルな機能があるにもかかわらず、ここ最近まで、学校図書館という

静かに読書をするためだけの場所というステレオタイプな捉え方が支配的でした。そこには、1960年代から最近まで知識詰め込み主義の教科教育が主流であったことが大きく影響しています。教科書の内容だけを要領よく教え込んでいけばよく、学校図書館の資料や情報メディアを活かして授業を行うという発想がなかったからです。そのため、休み時間や放課後に読書好きの一部の児童生徒が集うだけの場所になってしまったのです。

4. 学校図書館への関心が高まってきた理由

こうしたステレオタイプな状況から、ここ最近、学校図書館は大きく変わりつつあります。学校図書館を積極的に利用・活用しようとする機運が高まってきているのです。本稿の「はじめに」のところでも書いたように、図書館情報学の研究で学校図書館への関心が高まってきているのは、このためです。その理由は、大きく2つあります。

1つは、学校教育のあり方、学習指導のあり方が、教科書中心の知識詰め込み主義から脱却しようとしていることです。総合的な学習の時間や社会科（高等学校では、地理歴史科と公民科）その他の教科・領域で、教科書に載っていないことを学校図書館に行って自分で調べる「調べ学習」が盛んに行われるようになってきました。まさに、学校図書館の学習・情報センター機能が注目を集めているのです。

もう1つは、児童生徒の読書離れを食い止めるために、全校挙げての読書活動推進が図られるようになってきたことです。「朝読書」を全校で推進するなど、学校図書

館の読書センター機能も見直されてきています。

ただし、学校図書館には、所蔵している資料や情報メディアが古すぎたり、足りないために、児童生徒の「調べ学習」や読書のニーズを充たせないなど、解決すべき課題も山積しています。こうした課題を解決する牽引力として期待されているのが、学校図書館を掌る専門教員である司書教諭なのです。

5. 司書教諭が学校図書館を変える

学校図書館に対するステレオタイプな捉え方が支配的であった時代には、学校図書館は、校務分掌で学校図書館係になった係り教員が細々と運営にあたり、司書教諭は配置されていませんでした。それが、すでに述べたような学校図書館への関心の高まりの中で、司書教諭配置の必要性が高まり、ついに2003年4月から「学校図書館法」の改正によって12学級以上の規模の小学校、中学校、高等学校に司書教諭の配置が義務づけられました。

司書教諭の職務は、非常に多岐にわたっています。具体的には、(1) 図書館の管理・技術面に関する職務（学校図書館の経営全般、資料や情報メディアの収集、整理、保存、他の学校図書館や地域の公共図書館など外部のリソースとの連携・協力など）、(2) 図書館のサービス活動に関する職務（資料や情報メディアの貸出、レファレンス、読み聞かせ会やお話会の実施など）、(3) 図書館の指導に関する職務（読書指導、図書館利用指導、図書館を利用・活用する教科・領域におけるティーム・ティーチングなど）などです。

学校図書館の先進国とされるアメリカでは、学校図書館は学校の中核施設であり、それを掌るメディアスペシャリスト（日本の司書教諭に相当）は図書館の専門家であるとともに、学習指導や読書活動と資料や情報メディア、外部のリソースを適切にコラボレートさせる専門家として、教師集団のなかでも中核的な位置を占めています。

日本の学校教育でも、司書教諭が、校内でリーダーシップを発揮して、上に挙げたような職務を確実にこなし、学校図書館の機能を十分に果たしていければ、アメリカのような位置を確立することも可能であろうと考えます。ただし、そうなるためには、司書教諭の配置が義務づけられてからまだ3年しか経っていないわけですから、長く険しい道のりが予想されます。その道のりを歩んでいく司書教諭には、学校教育や図書館情報学の専門的知識・技能とともに、学校図書館の充実・発展に対する強い信念と情熱をもあわせ持っていることが求められるといえます。

6. おわりに

以上、本稿では、いま関心が高まりつつある学校図書館について述べてきました。今日のような変化の激しい社会にあって、学校図書館に限らず、あらゆる図書館に従来とは違った新たな期待が寄せられています。詳しく述べる紙幅はありませんが、例えば、公共図書館では、従来のような地域の読書の場としてだけでなく、地域の学習やビジネスの支援センターとして、そして地域の情報拠点としても期待されています。地域社会と利用者のニーズを的確に把握し、それにあったサービスを提供

していくことがこれからの図書館員には求められているのです。本学の司書課程・司書教諭課程を履修する学生のみなさんには、図書

館情報学の専門的知識・技能を身につけることはもちろんですが、学部の特門科目の勉強や学内外でのさまざまな社会経験を通して、

今、社会が何を求めているのか、それに図書館はどう貢献できるのかを考える眼を養ってほしいと思います。



学会での発表時の写真

教 職 課 程



卒業生から（国語）

東京都私立専修大学附属高等学校教諭 上山 和宏（平成12年 文学研究科国文学専攻修了）

「世界を股に掛けた教師になる」、という強い意志で日本に降り立ったあの日から数え、気がつけば早3年の月日が流れてしまいました。この3年間を振り返ると、日々はまさに「忍」。その中で様々な出来事が訪れ、教師の仕事なるものがおぼろげながらも見えてきたように思えます。

現在私は専修大学附属高等学校で国語科の教員として奉職する一方、大学時代の仲間とともに、中南米の民族音楽「folklore」の演奏活動を続けています。授業活動、クラス運営、校務分掌、クラブ活動など、ほぼ休みのない日々を追われる中、私の精神的な支えになっているのが、「folklore」をともに奏でることができの仲間存在です。課題曲を決め、少しでもよい音を奏でたいために切磋琢磨する。誰に評価されるでもなく、少しでも納得のいく演奏ができるよう努力する。結果ではなく、演奏という過程をともに共有することがいかに大切か、私は「folklore」の演奏を通して学びました。

この精神が、教員になった今も息づいています。生徒にとって必要なことは、仲間と呼び合える存在が必ずいるということを実感し、

そしてその仲間とともに学び合い切磋琢磨する中に学びの楽しさがあると感じ合ふことなのではないか、そう実感しています。教師が生徒にしてあげられることは非常に限られています。しかし、生徒に切っ掛けを与えることには、限りなど

ありません。但し、教師が自分自身に線引きをしない限りにおいて。そのためには、教師自らが日々課題をもって学んでいくことが必要不可欠です。課題は何でもよいはずですが。いかに自分が日々の生活の中で課題を探し、その課題に進進できたかがむしろ重要です。今の私の課題は、「韓国の国語科教育」と「日本の国語科教育」の比較検討です。

「韓国」という言葉が出てきたところで、冒頭の「世界を股に掛けた教師になる」という言葉をここで少々説明しましょう。実は私が教員になろうと決意したのは大学2年生のときです。大学の留学制度を利用して、中国に約1ヵ月間「短期語学留学」をした際に、日本を全く知らない自分の存在を

痛感しました。「何とか自分の言葉で日本を伝えたい」、その思いが私のターニングポイントとなりました。当時、商学部であった私の脳裏には、「文学」への憧憬が常に潜んでいまし



た。それにすべてを委ね、商学部からの大学院文学研究科国文学専攻への進学を決意しました。迷いよりもむしろ好奇心が先立ち、「早く自分の言葉で日本を伝えたい」、その思いで大学院生活を悔いのないよう最大限謳歌しました。しかし、現実では思うようにはいかず、教員採用試験は惨敗。しかし、かろうじて地元の私立高校の非常勤で、夢の第一歩を踏み出せました。そんな私のもとに舞い込んできたのが、「韓国での日本語講師」という、指導教授からのお話でした。好奇心に駆り立てられ、迷うことなく韓国に旅立ちました。そして、韓国日本語講師生活の2年間半、そこでの喜びと葛藤が今の私を「世界」と結び付けています。

帰国後3年が経ち、教員を目指すみなさんに言えることは、様々な人と出会い、喜びと葛藤を感じることの大切さです。そこでの出会いや別れ、そして経験がみなさんの今後の肥やしとなり、延いては生徒理解の助け、そして生徒の未来への飛躍を誘う鍵ともなるでしょう。教員生活は「忍」の一言につきまします。しかし、「飽くなき挑戦」と「未来への希望」がある限り、教員生活は何ものにも代えがたい達成感と充実感をもたらしてくれるに違いありません。



前列一番右が上山先生

卒業生から（英語）

埼玉県菖蒲町立菖蒲中学校教諭 増田 陽一（平成5年 文学部英米文学科卒業）

専修大学を卒業し、教職に就いてから早くも13年が過ぎました。はじめの頃は部活動のサッカー一部で子どもたちに負けじと一緒にボールを追いかけていましたが、いつの間にかそれも少しきつくなってきました。教員の採用人数が少なく、なかなか後輩が入ってこない中、この13年間のうちの11年間は学校で一番若い教員でしたので、いつまでも若手の気分でしたが、どうやらすでに中堅の仲間入りを果たしているようです。

私が教職の道を志したのは中学校を卒業したときでした。多感な中学時代に教育熱心な先生方に大きな影響を受け、「人の人生にこんなにも影響を与える教師という仕事を自分もしたい…」と思うようになりました。とにかく中学校の先生になりたい、教科はなんでもいいから…。はじめはそんな気持ちでした。得意だった数学や体育の先生になろうとも考えました。しかし、紆余曲折を経て入学したのは英米文学科。その時には英語の教員になることを決意していました。専修大学在学中はネブラスカ大への1年間の交換留学も経験しました（採用試験でこの留学経験をアピールしたのが良かったのかも…、と今でも思っています）。4年生で帰国してからは就職活動もせず、ひたすら教員採用試験に向けて勉強しました。教師になり



たいという気持ちだけは人一倍持っていたつもりです。ですから採用が決まった時は本当に嬉しかったことを今でも覚えています。初めて教壇に立ち、生徒達の目が一斉にこちらを見た時のあの感動は今でも忘れられません。

英語の授業は教育実習でやったやり方しか知りませんでした。初任者の頃は先輩の先生方の授業を参考にしながら、何とか必死になってやっていました。それでも少しずつですが自分の授業が出来るようになっていくことで自信を持つことが出来ました。しかし慣れはマンネリを生みます。10年近くになると、自分の授業はこのままでいいのか…と思うようになりました。埼玉県には長期研修という1年間現場を離れて大学等で研修を行える制度があります。

なんとか自分の授業を変えたい、教員としての自分を鍛え直したいという思いからこの制度に申し込みました。合格まで数年かかりましたが、何とか昨年度研修をさせていただきました。本当

に貴重な1年間を過ごすことができ、自分の意識も変わりました。後でふり返った時に、この1年間は間違いなく私の教員生活のターニングポイントになっていることでしょう。教育は絶えず変化していきます。生徒も変わります。教師にとってやはり大切なのは向上心です。絶えず自分を高める努力がなければならないし、それが全て生徒のためでなければならないと思います。

私にとって教師の仕事はやはりやりがいのあるものです。特に中学校では教科指導だけではなく、生徒指導や部活動をはじめやることは山ほどあります。教師を夢見ていた頃描いていた教師の仕事と実際とでは大きな違いがありました。人間を相手にするのですから、生徒のことで悩みは多いし、やはり大変な仕事なのだと思います。しかしどんな仕事にでも苦労はつきものです。どうせ苦労するのなら、好きな仕事で苦労できるので私は幸せなのだと思います。教職を志す皆様、是非困難に立ち向かえる強い信念を持って教育界に飛び込んでください。待っています。



卒業生から（社会）

兵庫県三田市立藍中学校教諭 北本 威（平成14年 法学部法律学科卒業）

朝7時30分、「ランニングいこうかぁ」寝ぼけ眼の部員たちに発破をかけて一日が始まります。そして8時25分2年1組の教室へ。「おはよう！」という挨拶に「おはようございます」の声が返ります。欠席者の確認などを終え、今日もいつものひと笑い。

教員採用試験の合格発表はインターネットで見ました。「不合格？」と思った次の瞬間「補欠合格」の欄に番号を見つけました。採用してもらえるのだろうかという新たな不安を抱えた毎日。3月終わりまで常勤講師として必死に働きました。野球部顧問、時間割作成担当、生徒会担当と、出来ることはなんでもこなししました。それら係としての仕事に追われ、パソコンとにらめっこし始めてから、授業の準備に辿り着くまでがとても長い毎日。もし正式に採用されて担任にでもなったら、体がもたないな。本当にそう思いました。

「担任を持ったら仕事は3倍に増える。でもな、やり甲斐は10倍に増えるぞ」。そんな先輩からのアドバイスを胸に昨年4月、現在の勤務先に長年の夢である「教諭」として着任することとなりました。小学生から野球を始め、中学では野球部主将に。母校三田学園高校

と、ここ専修大学体育会準硬式野球部で副主将を務めた私は、「指導者として甲子園に」そんな夢を叶えるために高校教師を目指しました。そんな「野球人間」の私が中学校の「担任」としてこの子たちに伝えら

れることは何だろうか。入学式の前夜ひとりじっくり考えました。クラス38名一人ひとりが役割のあるクラスにしたい。得意なこと苦手なことを補い合えるクラスにしたい。みんなでひとつのものを作り上げる素晴らしさを伝えたい。

迎えた入学式、初めての教え子38名の名前が入った名簿を、一生懸命読み上げました。そして教室に戻り、徹夜で作った「くす玉」の紐をクラス全員で引っ張りしました。「祝入学！ 輝け38の原石たち」と書かれた懸垂幕とともに彼らの中学生活がスタートし、同時に私の教師人生がスタートしたのです。

中学生の日常はもの凄いスピードで流れていきます。同じように我々の日常も息つく暇もありませ



ん。授業やホームルーム、清掃が3時に終わって部活がスタート。部活が6時に終わったら、教室整備に学級通信、生徒会関係の仕事に職員会議の資料作成。そこに加えて家庭訪問に行くことも。そのあとでようやく授業に向けての教材研究。土日でも部活で休みがない。そんなバタバタした日常の陰にちょっとした感動があるのがこの仕事だと思います。出来なかったことが出来るようになった生徒を見たとき。自分の話を聞いて涙ながらに「頑張ります」という生徒を見たとき。保護者から「北本先生を見て将来の夢が“教師”になったみたいです」と教えていただいたとき。

大学時代に教職課程の「特別活動論」の授業で先生が「教師にとって一番大事なものは？」と質問された時、ある同級生が「それは、生徒への愛です。」と答えました。他の学生は（私を含め）大爆笑でした。ところが先生は「大正解」と真剣な眼差し。今は私もそれが大正解だったことが分かります。生徒のためにどれだけの事ができるのか。「気持ちでやる仕事」、それが教師の仕事だと思います。この「生徒への愛」に自信がある人は、何が何でも教職の道に進んでもらいたいものです。



卒業生から（情報）

東京都私立専修大学附属高等学校教諭 服部 竜也（平成16年 経営学部経営学科卒業）

<はじめに>

私が情報科の専任講師として母校である専修大学附属高等学校に奉職して半年を迎えようとしております。情報科の助手、非常勤講師を経て、第一志望であった母校の教壇に立つことができる喜びを感じながら教員としての生活を送っている毎日です。

今回は私の経験等をお伝えしたいと思いますので、少しでも参考にして頂ければ幸いです。

<採用までの流れ>

私学で採用試験に至るまでの流れですが、大きく分けて2種類存在します。1つ目は各学校が独自に募集をし、試験を行うという方法です。2つ目は各都道府県の私学協会に書類を提出し、私学教員適性検査の受験、もしくは履歴書の委託を行うという方法です。

これらは各都道府県、また教科によって方法が異なることもありますので注意をしてください。

私学の採用試験は各学校独自の試験になりますので、正確なことはお伝えできませんが、私の場合は1次試験が書類審査、2次試験が小論文・専門教養・面接、3次試験が模擬授業・面接、4次試験が面接という流れでした。他校の先生方に伺っても、基本的に書類審査、小論文、専門教養、模擬授業、面接が多いようです。

採用試験でポイントになるのは模擬授業です。なぜ模擬授業がポイントなのかというと、私学のほ

とんどの学校で実施される試験で、受験者間の差がつきやすい試験だからです。また、新卒者が一番脱落する試験でもあります。なぜなら、教育実習の経験しかない新卒者と講師経験のある人材が模擬授業を行った場合、結果は明らかでしょう。そこで、在学中の皆さんは、積極的に教育現場に足を運んで授業の見学をする。また、友人を生徒役にして、模擬授業を定期的に行うなどの対策をして欲しいと思います。

<教員の日常>

教員になって感じたことは教科の仕事というのは一部に過ぎないということです。現在私は生活指導、庶務、校友、PC管理の4つの部署に所属しており、生徒対応も含めると、自分でスケジュールを組むということが困難で、日々慌ただしく次々と仕事をこなしているということが現状です。私の場合は生活指導を担当していることもあり、朝の7時半頃出勤し、8時頃から最寄りの駅に立ち登校指導をしています。登校指導ではあいさつをする習慣を身につけるとや、服装の乱れなどを注意することが目的になっています。その後、学校に戻って授業を行います。放課後は生徒対応の他に、教科・部署・学年などの様々な会議やクラブ活動など

のことがあります。空いた時間を利用して授業の準備を行うということが教員の日常となっています。つまり、しっかりとした授業を行えるということは大前提で、その他に数多くの仕事をこなさなくてはなりません。よって、採用時に模擬授業がポイントになるわけです。ですから、学生の皆さんには今の段階でしっかりと教科について知識を深め、準備をして頂きたいと思います。

<最後に>

私から一言伝えたいことは、教員を目指している皆さんには「絶対に諦めない」という気持ちを大切にしてください。私も一度は現在の職場で不採用になりました。様々な葛藤もありましたが、最終的には何年かかって教員になりたいという強い信念を持ちながら講師として教壇に立ち、諦めず努力したことによって、翌年に採用が決まったと思っています。

教員を目指す学生の皆さんが一人でも多く教壇に立てることをお祈りいたします。



教員採用試験体験記（国語）

千葉県千葉市立花園中学校教諭 吉田 一弥（平成13年 文学部国文学科卒業）

1 はじめに

私が教師になりたいと初めて思ったのは、小学校三年生の時でした。それから約20年後、ようやく夢を叶えることができました。現在の勤務校は、全校生徒700名を越える、千葉市内でも一・二を争う大規模校で、三学年副担任、バスケットボール部の顧問として、充実した毎日を送っています。

2 学校現場へ

大学卒業と同時に、私は学習塾で正社員として働きだしました。それなりに楽しい日々を送っていたのですが、ある日生徒に「塾の先生って、俺たちの思い出に残ることってないよね」と言われました。塾には、体育祭のような行事もない。生徒と顔を合わせるのも週に数時間……。確かに、その生徒の言うとおりだと思い、悩んだ末、退社しました。

退社と同時に、私は千葉県に講師登録をしました。千葉県の場合、講師登録の手続きは簡単で、教育委員会に履歴書を送っておくだけで、登録できます。登録から一ヶ月後、教育委員会から一本の電話が入り、運良く講師として学校現場に入ることができました。

千葉県の講師には、「臨時的任用講師（以下臨任とする）」と「非常勤講師」の二種類があります。前者は、講師という立場ではありますが、仕事内容は正規の先生方とまったく同じ、ボーナスも出ます。後者は授業だけを行い、給料も時給制です。

私の最初の一年は、臨任として

スタートしました。勤務先は高等学校の定時制です。ご存じの通り、定時制には様々な生徒がいます。年上の生徒もいました。夜中に、泣きながら助けを求めて私の家まで押しかけてくる生徒もいました。そんなドラマのような毎日が、大変心に響き、「採用試験に合格し、教師になろう」という思いを、よりいっそう強くしてくれました。

二年目は、同じく臨任として全日制の高等学校へ勤務しました。三年目は、非常勤講師として、また別の高等学校へ勤務しました。

3 採用試験に向けて

私にとって、講師としての三年間は、どんな参考書よりも勉強になりました。採用試験での小論文・面接・集団討論は、すべて三年間の経験をふまえて解答しました。この三年間がなければ、絶対に合格することはなかったと思います。

な出題傾向があるので、実際の教育現場での課題や問題点などをキャッチできる点でも、講師として学校現場へ入ることは、とても大きなことだと思います。

皆さんのなかには「一発で合格したい」と思っている方々がほとんどだと思います。千葉県は年々倍率が下がってきているので、「一発合格」されている方が多くなってきています。しかし私は、いろいろな経験をしておくことが、教師にとって一番大事なことなのではないかと考えます。また、「自分が本当に教師に向いているのか」を見極める場面が必要だと思います。これは、教育実習だけでは絶対に見極めることはできません。採用試験合格までの道筋の中に、ぜひ「講師」という通過点も視野に入れていただければ、と思います。

4 おわりに

皆さんは今、教育法規や、数学・英語などの一般教養の勉強に励んでいることと思います。もちろんそれらの勉強も大事ですが、机の上の学習だけでは、採用試験には対応できません。今、学校で何が起きているのか、子どもの実態はどうなのか、生徒指導はどのように行っているのか、などなど、新聞記事や教育雑誌を使って

「生の情報」にたくさん触れていくこと、これが採用試験に合格するために一番大切なことだと思います。是非自分なりの視点で、教育現場を見つめていってください。



部活の生徒と 一番下中央が自分

千葉県では、ある一定期間講師をしていると、採用試験で「教職教養」と「一般教養」が免除されます。学校内で配布された文書から問題が出題されたこともありました。また、教育界の流行に敏感

教員採用試験体験記（英語）

茨城県結城市立結城中学校教諭 吾妻 雅世（平成16年 文学部英米文学科卒業）

1 恩師である英語の先生との出会い

中学校時代、英語の授業を担当して下さった先生との出会いが、私の英語の興味関心を高めることにつながりました。A先生は、必要以上に日本語を使わない授業を行っていました。中学生の私にとって、とても新鮮に感じられる英語の授業でした。授業では英語をたくさん使って楽しく活動し、友達とのペアワークなど、生徒たちが意欲的に学ぶことでさらに英語のおもしろさを感じることができました。



修学旅行 北野天満宮にて生徒たちと

2 大学4年生の7月、初めて教員採用試験に挑戦

6月に教育実習を終えたばかりの私は、1次試験対策の勉強がほとんどできないまま受験の日を迎えました。結果は、不合格。とても悔しい思いでいっぱいでした。不合格通知の中には、講師登録用紙が同封してありました。私は、すぐに教育委員会宛に講師登録書を郵送しました。その後、早めに登録を行っておいたこともあり、12月に講師採用の電話がかかってきました。私は受験勉強にさしつかえないようにと、非常勤講師の職を受けることにしました。

3 大学を卒業後、非常勤講師に

初めて教員として教壇に立ち、私は、2・3年生の習熟度別クラスと1年生1クラスの担当をしました。また2学年の副担任として、先輩の先生方と協力して、仕事を進めていきました。基本的に非常勤講師は部活動指導・学級担任の仕事を任されることはないのですが、教科指導に力を注ぐことができました。私は1年生から3年生までの教材研究を毎日、時間を惜しま

ずに行いました。そして仕事をしながら、教員採用試験に向けての勉強をスタートしました。

＜非常勤講師をしていたときに私の主な日課＞

月曜日から金曜日

(AM8:00~PM3:30) : 学校

(PM3:30~PM6:30) : 図書館
で勉強

土曜日・日曜日 : 教員採用試験のための専門学校で1日勉強

1次試験対策

教職教養：教育原理・教育法規・教育基本法・中教審答申・学習指導要領など

（茨城県は法規等の穴抜き問題が多い・重要法規を押さえておけばOK）

一般教養：社会（時事問題を含める）・理科の出題が多い

＊19年度の採用試験では英語の問題も出題された。

専門（英語）：学習指導要領（外国語科）・読解・英作文

2次試験対策

論作文（教育に関する考え方・

実践的指導力を問う課題）

面接（集団面接・個人面接（自己PRを含める））

＊2次試験対策：自己PRは中学校のときにお世話になった校長先生にご指導をしていただきました。

4 2度目にして教員採用試験に合格

私が受験した平成17年度の茨城県教員採用試験の外国語（英語）科の採用は8倍程度でした。私は自分がやってきたことを信じて、試験に臨みました。1次試験は今まで暗記してきたものが出題されていたので、できたという感触をつかむことができました。2次試験の論作文・面接では、自分の教育に対する考えをまとめ、伝えることができたと思います。

5 教員として1年目そして2年目

1年目は初任者研修があり、教員としての心構えから指導法までたくさんのことを学びました。また2年生の副担任として、6クラスの生徒たちの名前と顔を早く覚

えることから、生徒のことを理解することに努めました。中学校は小学校とは違い、多くの先生で1人の生徒を見ることができるのですが、自分1人で解決しようとしなくて周りの先生方を協力していくことが大切であることを改めて感じました。2年目の今年度も引き続き、昨年からの生徒を担当することになり、現在3年生の副担任をしています。中学3年生のひと

りひとりの生徒が、自分の目指す進路に向かって努力できるように指導をしています。英語の授業では日本人の教師が1クラスに2人、もしくはALT（英語指導助手）とJTE（日本人の英語教師）というように、生徒により分かりやすい授業をしようと、思考錯誤しながらの授業づくりを心掛けています。また、部活動指導では女子バレー部の顧問として、生徒と共に汗を

かき、練習に励んでいます。

教師という仕事は、生徒のことを考え、生徒と共に自分の人間性を高めることのできる素晴らしい職業だと感じています。時には厳しく生徒を叱ることも必要ですが、生徒のことを優しく受け入れて接してあげることも大切なことだと思います。教師を目指す皆さん、自分を信じて頑張ってください。応援しています。



バレー部（3年生お別れ試合にて）部員全員と記念撮影

教員採用試験体験記（社会）

千葉県銚子市立第二中学校教諭 金谷 真寿（平成16年 経済学部国際経済学科卒業）

（はじめに）

私が教員を志望するようになったきっかけは、自分が長年やってきた野球を通して子どもを育てたかったからです。野球は小学校2年から始め、大学でも準硬式野球部に所属していました。本望としては高校野球の指導に魅力を感じていましたが、今は中学校教員として野球を教えています。教員になろうと決心したのは大学2年の冬だったので、その頃から採用試験の勉強を始めることになりました。

（採用試験勉強について）

私は、高校・大学ともに推薦での入学だったので、本格的な受験勉強の経験がありませんでした。また、野球に打ち込んでいたため、日ごろの家庭学習の習慣もなく、採用試験の勉強が事実上初めての受験勉強になりました。そのため始めは毎日机に向かうことすら苦痛でした。採用試験の勉強を本格的に始めたのは大学3年の冬からですが、大学4年の5月までは部活を続けていたため部活と試験勉強の両立が非常に大変でした。5月に部活を引退してからは、試験勉強一筋の毎日になりました。単位は3年までにほとんど取り終えていたので、部活動引退後は受験勉強に打ち込むことができました。それからの勉強は1日に10時間前後行っていました。しかし、残念ながら現役の試験には不合格になってしまったため、夏休み以降も受験勉強に打ち込みました。講師をやっていた時ははっきり言ってほとんど勉強ができませんでした。おかげ様で講師1年目で試験に受かったのですが、振り返ってみると大学4年時の1年がなかったら間違いなくまだ合格はしていないと思います。それほど現場は忙し

いため、大学生の時にどれだけ勉強をしたかがポイントになると思います。

社会科（専門教養）の試験には、日本史、世界史、地理、政治経済、現代社会、倫理の全てから出題されるため、全てに手をつけました。なにしろ受験勉強をしたことがなかったため、基礎的な知識ですらかなり欠落しており、始めは気の遠くなるような日々でした。その中から自分なりにつかんだ採用試験勉強のポイントは、試験に合格するためには教員として必要なレベルの知識はいらないということです。わかりやすくいうと、問題集を解けるだけの知識があればよく、語句について説明をするまでの知識は必要ないということです。どうしても教員という意識で勉強すると深くまで知りたくなるものですが、採用試験は専門教養以外にも教職教養、一般教養、論文と多くの科目があるため、合格するためにはできるだけ省けるものは省いた方がよいと思います。

（実際に教員になって）

実際に教員になってみて感じることは、想像以上に忙しいということです。授業の教材研究ももちろんですが、それ以外にも様々な仕事があり、中学校は授業の空き時間がほとんどないため、事務仕事をするのは部活を終えて生徒が帰ってからです。

しかし、やはり教員としてのやりがいを感じるのは生徒の成長を間近で感じることができることや、多くの感動を味わえることです。自分が関わった生徒が成長してくれていることはお金では買うことのできない貴重な財産です。忙しくても生徒の笑顔を見たり、生徒と本気で語り合ったり、時には生徒を指導したりする中で忙しさは忘れてしまいます。採用試験の勉強は思ったより大変かもしれませんが、「教師になりたい」という強い気持ちがあれば乗り越えられると思います。皆さんもぜひ自分に負けず頑張ってください。



教員採用試験体験記（商業）

東京都私立日本放送協会学園高等学校講師 伊藤 景如（平成18年 商学部商業学科卒業）

NHK放送学園高等学校はNHKのテレビ放送やラジオ放送を視聴して学習する通信制高校である。そのため生徒は日本全国どこでも自分のペースに合わせた学習が可能である。

通信制といっても生徒はまったく学校へ行かなくてもよいというわけではなく、月に一度学校へ登校して実際に授業を受けなければならない。生徒が日本全国にいてということ、実際に授業を受ける場所は国立にある東京本校だけではなく、協力校といわれる各地の公立高校・私立高校でも授業を受けることが可能である。

生徒の学習はこの月に一度の学校への登校、これをスクーリングと言うが、これとテレビ・ラジオの視聴、そしてレポートという各教科ごとのプリント学習によって行われている。このため生徒への学習指導は通常、このレポートが中心になっている。全日制の高校だと、質問があれば直接1対1での指導が可能であるが、それを文字で行わなければならないため、NHK高校の教員には文章力が求められると思う。

実際私が初めてNHK高校を訪れて高校の説明を受けたとき、いきなりその場で簡単なテストを受けさせられた。それが、レポートの概要記入だったのである。概要というのはレポート毎に添削教員が記入するコメントのことで、3～5行程度しか記入する欄がない。しかしこの記入欄には生徒から提出してもらったレポートの講評、間違えてしまった点、復習時に考えてもらいたい点、そして忘れてはならない次への励ましの言葉が盛り込まれている必要がある。私の場合は教育実習が中学校で毎日生徒の計画帳にコメントを記入す

る作業をやらせていただいていたため、初めてレポートの概評を記入したときも比較的好印象だったと思う。

このような学校訪問を終えて、実際に非常勤講師として働きたいと思ったら、後日面接を受けなければならない。面接は2月に国立にあるNHK学園東京本校にて行われた。私の受験教科である商業科目ビジネス基礎以外にも、多くの教科で受験者がいたようだ。面接は3対1で行われた。中心に副校長、そして左右に筆頭教頭と商業科主任がお座りになり面接をしていただいた。面接の内容は、受験の意気込み、志望動機はもちろんのこと、事前に提出した履歴書、自己紹介書の内容を中心に行われた。自己紹介書はNHK学園からいただいたものでその内容は、

- ・ あなたの学生生活を報告してください。
- ・ 入学案内書を参考にしてNHK学園についての意見・感想を書いてください。
- ・ 所属団体 サークル クラブ活動 役員歴 選手歴

- ・ 好きなTV番組
- ・ 好きなこと（趣味・スポーツ）
- ・ 最近印象に残った本
- ・ （参考）当学園以外の受験先

である。先にも話したことであるが、NHK学園ではテレビ・ラジオを使った学習をしている。実は商業科の科目にはテレビ・ラジオともに放送がないのであるが、他の教科の放送でいいので面接前に1度は見ておきたい。私の場合は教科情報と日本史の放送をビデオ録画しておき2、3度見ておいた。もちろん面接での話の種になったことは言うまでもない。さて、面接の後1週間ほどで合否通知が郵送される。この通知で採用となっていれば晴れて合格というわけである。

NHK学園は、毎日授業を行えないということで1回のスクーリングで、全日制高校の2か月分ほどの範囲をしっかりと伝えなければならず、他校では体験できない経験を積むことができる。少しでも興味のある方は是非チャレンジしていただきたい。



教育実習を終えて（国語）

東京都立調布北高等学校 文学部日本語日本文学科日本語学専攻 4年 新井 史恵

1 はじめに

私は母校である東京都立調布北高等学校で三週間実習をさせていただきました。実習生は14人、うち国語科の担当は2人でした。

「是非、教育実習でまた北校においで。」

高校を卒業する数週間前、国語の恩師にいただいた言葉です。その言葉を胸に、大学に入って教職課程を履修し、いよいよ教育実習で母校の教壇に立つ日が来たのです。恐れ多くも人から「先生」と呼ばれる三週間がスタートしました。

2 イメージとのギャップ

私がホームルームを受け持つことになったのは、二年生のクラスでした。実習前、高校生とのコミュニケーションについてある程度予想していたのですが、思った以上に難しい年頃であると感じました。教育実習生で生徒達と歳が近いのが強みのように思っていたのですが、それだけでは生徒とは打ち解けられませんでした。私の場合、生徒をよく観察することから始めました。特に、生徒の名前はすぐに覚えるように努めました。目立つ子も大人しい子も分け隔てなくホームルームクラスの全員の顔と名前を少しの間に一致させるのは易しいことではありませんが、話しかける際に生徒の名前を呼んでから会話に入ること、話のクッションの役目をしてくれました。「先生なんで私の名前知ってるの？」なんて驚きつつも嬉しそうな生徒を見ると本当にこちらも嬉しい気持ちでいっぱいでした。

さらに生徒たちをよく見てみると、思っていたよりも大人の面もあれば、子供の面も残っていて不

安定な心の揺れも感じました。ですから、私も実習生とはいえ教える立場であり発言のひとつひとつが何らかの影響を彼らに与えることを常に頭に置いて話さなければなりませんでした。そうした教師としての自覚を重んじる危機感が足りていなかったことを痛感しました。

3 教壇実習について

二年生の現代文と古典を担当させていただきました。古典は私が選んだものを、現代文は単元の途中からやらせていただきました。授業は現代文、古典合わせて24回行いました。

「教壇は舞台、教師は役者のような関係かもしれないね。」このように指導教官にアドバイスをいただきました。最初は実感がわかなかったのですが、実際に教壇に立ってみるとその言葉がよく理解できました。教壇に上がる寸前まで手が震えるほどの緊張をしていましたが、教壇に立った瞬間、身が締まる思いで50分間お腹の底から声を出して身振り手振りをしながら笑顔で授業を行いました。普段の学生の自分ではなく、教師の仮面をかぶり演じる、というか変身してしまったような心持がしました。ですから、かなりの高揚感があり、教壇から降りて職員室に戻ると一気に脱力してしまい、非常に体力を要することを学びました。

また、授業はライブであるということも指導していただいた先生は仰っていました。生徒の反応も



含めて授業が成立するのですから、こちらが少しでもつまらない授業展開をしてしまったり、何らかのトラブルで慌ててしまったりするとすぐに生徒たちの視線、はたまた心が授業から離れていってしまうのを身をもって感じました。集中が途切れそうなところで声に強弱をつけたり身振り手振りを大きくしたり、と何らかのアクションを起こして授業にメリハリをつけることはとても効果的でした。また、一人よがりな授業をしてしまわないように、生徒の発言のひとつひとつに丁寧に答えていくことや、生徒がつまづいた箇所をもう一度よく考え直すための手助けをして、生徒と向き合う授業を心がけました。

特に難しかったのが生徒への発問でした。一つの授業に一つポイントを自分で設定してそこを山場として伝えたいことを明確にすると、生徒は分かりやすいようです。教材研究をしているとついろいろ授業に詰め込みたくなりますが、じっくり読み込むところとさらっと流すところのメリハリが重要でした。授業に一本筋を通してメリハリをつけること、そこからおのずと発問の仕方が切り開けたよう

に思いました。

4 生徒とのふれあい

実習期間中、合唱祭が行われました。どの学年もどのクラスも朝と放課後に熱心に練習をしていたので、そこに私は参加して生徒と接しました。OGとしてアドバイスを交えながら生徒を見守ることしかできませんが、それでも毎日参加をしていました。次第に生徒からも話しかけてくるようになり、私の高校時代の話や今の高校生事情など様々な話題に花を咲かせました。

合唱祭で私のホームルームクラスは惜しくも学年2位でした。これは大変優秀な成績なのですが、彼らにとって、非常に残念な結果となりました。クラス全体が落ち込んでしまい、それまで計画していた打ち上げも解散の雲行きになり、中には投げやりになる生徒もいました。そのような事態を私はただ見守ることしかできませんでした。高校生ですから、考える力は大人に近づいている、その途中にいる彼らにどこまで介入しているのか難しいところですが、私の

判断は間違っていなかったように今は思います。

実習最終日、生徒から「先生、今日先生のお別れ会するから放課後まってね。」突然の言葉に驚きましたが、大変嬉しいものでした。放課後教室を訪ねると、彼らが一斉に合唱を始めました。筆舌に尽くしがたい思いでした。私はきっと一生彼らの歌声を忘れないでしょう。

5 実習へ行く皆さんへ

受け入れてくださる学校、先生方にとってかなりの負担になっていることを、私は実習が始まってから自覚しました。そればかりか、受験を考える生徒にとっても実習生の授業が三週間も続くことはストレスにもなりかねないということも知りました。ですから、決して安易な気持ちで単位のために行ってしまうのはいいのです。

そして私が声を大にして言いたいの、教材研究はどんなにしてみすぎることはないということです。かなり余裕を持って教材研究を行ったつもりでしたが、教育の現場にでて教材研究が足りなか

ったことを痛感しました。指導案のほとんどを練り直し、徹夜で睡眠不足の日々が続きました。実習は体力勝負なので睡眠不足は痛烈なミスでした。

教材が決まった時点で、基礎的なことから関連事項まで幅広く貪欲に知識を集めて十分な準備をしても授業で使えることはわずかです。しかしながら、集めた知識が多いほどそれが隠し味のように授業に面白味を増してくれるのです。大学の図書館ほど専門的な分野の本をたくさん扱う場所はなかなかないので、活用することをおススメします。

「実習では是非失敗をしてください。」これも指導教官にいただいた言葉です。失敗は成功のなんとやら。失敗できるのは今のうちなのです。十分すぎるほど準備して、それでも失敗がつきまとう教育実習できっと成長できるでしょう。指導計画にとらわれすぎないで目の前にいる生徒から出発することを忘れないで、誠意のある心のこもった授業で生徒たちのハートを掴んで頑張ってください。



教育実習を終えて（英語）

東京都私立東洋女子高等学校 文学部英語英米文学科 4年 宮崎 愛子

自分が母校に教育実習生として戻ってくるとは、高校を卒業した当時は思いもしませんでした。教師という進路を考え始めたのは大学に入学してからで、教職課程を履修したのも、自分の英語力を上げる動機付けでありました。しかし、授業を通して“教える”事の大切さ、楽しさを知り、教育実習を楽しみにしていました。

私が受け持ったのは1年生。入学してまだ2ヶ月、生徒たちもやっと学校に慣れてきた様子で、はじめの1週間は私も遠慮気味になってしまい、なかなか打ち解けられませんでした。そんな中、実習4日目に迎えた初授業。担当は習熟度別に分けられた真ん中のクラスでした。この日のために色々なアイテムを用意し、まずは生徒のみんなと打ち解けようと考えていました。予定より少し遅れてしまいましたが、自分の中では何とか無事に終え、教科担当の先生との反省会では授業のテンポの遅さ、発音の間違いなどの指摘を受けました。次の日にも授業があり、前日の授業に気をとられていた私はこの時間の準備に手を抜いていました。案の定、予定通りには進まず、半分も終わることが出来ませんでした。その後の反省会で担当の先生に「授業が進まなくて一番困るのは生徒だから、単に自分がやってみたいことを試すのではなく、本当に生徒のためになるのか

をきちんと考えなさい。」と言われました。不覚にもこの時まで、私は自分の事しか考えていないことに気づきました。大学で習った授業の進め方や考えた計画を“実践する”事しか考えておらず、一番に考えなくてはならない生徒主体の授業を忘れてしていました。限られた50分間の中でどれだけ生徒の記憶に残る授業を展開するのか、時間配分を含めこれは本当に難しい課題でありました。

この失敗があったことで、残りの2週間は全力で臨みました。忙しい時間を割いて頂き、教科担当教諭に模擬授業の指導をうけ、空き時間はなるべく他の先生方の授業を見学に行きました。練習すれば、指導案通りには進めることが出来ませんが、今度は時間ばかりが気になって、実際の内容がおろそかになってしまう。どちらもしっかりさせる為には練習あるのみでした。毎日遅くまで残り念入りに準備をし、そのおかげで、不安感は始めの頃より軽くなっていき、それと同時にHRクラスでも自分からコミュニケーションがとれる様になっていきました。ちょうど、合唱コンクールをひかえており、練習不足が悩みであったクラスに対して、私自身、これはクラスの問題なので教育実習生の私が口を挟むべきではないと考えていました。しかし、何とかしたいと思い「こうしたらいんじゃない？」と放課後の練習に積極的に参加するようにしました。すると生徒から「やっと先生もやる気になったんだから頑張ろうよ！」という声。実は生徒達は、私が輪に入ってくることを待っていたのだと気づきました。先週末までの私は受身で、生徒が話しかけてくれるのを待っていました。でもそうではなく、



自分から打ち解けようとしなければ相手も心を開いてくれない。私にはその姿勢が足らず、1週間も生徒との貴重な時間を無駄にしまった事をとても後悔しています。

それからの2週間は本当にあっという間でした。この文章を読むと「大変そうだなあ」と思うかもしれませんが、私は「大変」でよかったと思っています。それが本当の教師の仕事なのであり、教師を目指すのであれば、「楽しかった」という思いだけで終わってしまってはいけないのではと思います。この大変さの中で本当に多くのことを学ぶことが出来ました。自分の力の足りなさ、指導の難しさ、半分にも満たないかもしれませんが教師という仕事の大変さを体感できました。だからこそ、これから頑張ろうと思うことも出来ました。もちろん、大変なことばかりではなく、それを吹き飛ばしてくれた生徒達の笑顔も忘れられません。自分のことを先生と慕ってくれた生徒達が本当に愛しいと感じることが出来ました。教師という仕事は人と人とのコミュニケーションなしでは成り立ちません。熱意と情熱を持って接すれば相手も必ず心を開いてくれます。たかが実習とは言わずに、ぜひ沢山の事を吸収してきてください。この経験は必ず自分の為になります！



教育実習を終えて（社会）

茨城県立下館第一高等学校 文学部人文学科歴史学専攻4年 仙波 航

私は3週間の教育実習を行いました。大学に入ってからずっと楽しみにしていた母校での教育実習です。歴史学専攻ですが、担当科目は地理で、2年生3クラスの授業を受け持ちましたが、授業変更と体育祭が入ったため8時間という少ない授業数となりました。

授業をしてみて感じたのは、クラスによって授業の雰囲気は全く異なることです。同じ授業をしても、全く違う反応が返ってくるので、驚きました。静かに授業を受けるクラス、お喋りが多いクラス、寝てしまう人が多いクラス（泣）と様々です。クラスによって授業の形を変えていくことができなかったこと、それからもっとメリハリを利かせた授業ができなかったこと等、反省点は多々あります。しかしながら、模擬授業での失敗をなんとか繰り返さないように教材研究をし、板書の練習をして授業に臨んだので、大きな失敗もなく、8時間の授業を何とかこなすことができました。本当に教材研究をするとしないのとでは大きな違いです。何よりも生徒に教えるという責任感を持って取り組んだからこそしっかり教材研究をして、授業ができたのだと思います。

また、私の教科担当の先生が在学中の担任の先生だったので、私をよく理解したうえで指導してくださいました。担当の先生に恵ま



れたことは非常に大きかったです。授業のアドバイスはもちろん、日誌には熱い言葉を書いてくださいました。

放課後は硬式野球部の練習に参加しました。部活の休みを除き毎日参加したので、野球部の生徒とはかなり親くなりました。自分たちの経験を後輩に伝えることの喜びも感じました。また、練習後に他の部活の生徒と接する機会もあり、他学年の生徒とも話す機会がありました。

HRは2年3組を担当しました。一週目、人見知りが激しい私はこのクラスの雰囲気に慣れることだけで精一杯でした。次第に生徒の方から話しかけてくるようになり、クラスに打ち解けられるようになりました。一週目の後半から授業も担当していたので、日に日に生徒たちとの距離は近くなっていき

ました。三週目では、体育祭を生徒たちと一緒に楽しんだり、ホームルームで自分の高校のほろ苦い思い出を話したりしたことで生徒たちとの距離が一気に近くなって、かなり親しく

なれました。クラスのほとんどの子が「先生」と気軽に声をかけてくれるようになったのに、もう終わってしまうと朝から泣きそうだった最終日、教室の外で待っていて、と言われ待つこと20分。呼ばれて教室に入ると黒板に「今までありがとう」の文字と実習生二人の名前が書かれていました。そして、色紙と花束をもらい、本当に嬉しくて、感極まって泣きました。生徒と同じ目線に立ち、等身大の自分で生徒に向かい合ってきて本当に良かったと思いました。そして最後にこんな粋な計らいをしてくれた3組のみんなが大好きになりました。みんなは私の大きな支えです。

実習が思い出深いものになったのは、実習を思う存分楽しもうと生徒たちと積極的に触れ合った結果だと思います。この実習で、もう夢は見るものではなく、叶えるものになりました。

これから実習に行く皆さんはとにかく実習を楽しんでください。そのためには生徒たちと積極的に触れ合うことです。生徒と仲良くなることで実習は楽しくなり、忘れられない思い出になると思います。



後列一番左が仙波さん

教育実習を終えて（商業）

東京都立市ヶ谷商業高等学校 商学部商業学科 4年 大地 竜太

2006年6月5日より16日までの2週間、私は都立市ヶ谷商業高等学校にて教育実習を行いました。実はこの学校は、私が大学2年次の1年間、育児休業代替の実習助手（教科＝商業）として勤務させて頂いた場所でありました。自身が高校時代にお世話になった恩師の教育への情熱に心を打たれ、また自らが教育現場で勤務をするという状況を踏まえ、学校教育活動について深める必要性を痛感し、2年次から教職課程を履修しました。

受け持たせて頂いたクラスは2年生の女子クラスでした。人懐こい素直な生徒が多いのが特徴です。都立高校の中では小規模であり、1学年4クラスのアットホームな雰囲気、それぞれの教員が生徒一人一人のことをよく把握している好ましいコミュニティが形成されている学校です。私が担当させて頂いた科目は簿記です。当初は指導教諭・山本睦美先生が受け持たれている6科目（簿記、情報処理、課題研究、商業技術、文書デザイン、総合実践）を受け持つように言われておりましたが、全て

を引き受けることのできる余裕は実際にはありませんでした。2年生の簿記は3単位であり教壇実習を実施しない日もありました。2週間のうち授業参観は34時間、教壇実習は5時間でした。

授業参観では、商業科目をメインとして、他教科（普通科目）の授業も積極的に見学させて頂きました。教科の内容に関わらず、「教える」という行為を学ぶうえで、様々な先生方の授業を見学させて頂くことは、自身の行おうとしている授業のイメージトレーニングになり学習指導案を考える際のヒントや知恵を得ることのできるとても大切な時間と言えましょう。教壇実習の前に授業参観をすると緊張している自身を励ますことができると感じました。

教壇実習は教育実習2日目から始まりました。前日に指導教諭1人の前で模擬授業をさせて頂きました。50分という時間をどのように使うか悩んでおりましたが、時間を持て余すどころか50分をオーバーするという事実を認識しました。50分は長くはなくすぐに過ぎ去ってしまうものなのです。この

ことに十分注意しながら5回の教壇実習を進めていくことになりましたが、授業の導入・展開・整理の3つを50分で完璧にこなすことは実習生である私には至難の技であったと言えます。時には導入なしで展開から入ってしまったり、展開に時間がかかり整理が満足に締めくくれないままチャイムが鳴ってしまうということがありました。何を1時間の授業の強調部分にするかを準備すべきであると指導されました。

教育実習最終日、教壇実習5時間目にて、研究授業を実施しました。普段から様々な先生が参観をして下さっておりましたが、この日は校長・副校長先生をはじめ大学の先生等多くの方々が参観して下さいました。後方からの視線を浴びていましたが、多くの失敗と厳しい指導を受けてきた経験による自信が「最終日に恐れるものは何もない。むしろ有終の美を飾る」という決意に立っていました。先生方が見えていない程生徒へ教えることに夢中になっていました。過去の教壇実習での反省点を生かし、予定の内容をほぼ時間配分通りに進めることができました。まとめの説明を切り良く終えた直後にチャイムが鳴った時は安堵と共に自身で感動してしまいました。その後校長室にて批評会が行われ、多くの先生方から感想を頂きました。普段叱られてばかりでしたが、この日は指導教諭に「実習生とは思えない程の授業だった」と言って頂くことができました。また実習助手として勤務していた際いつも叱咤激励して下さいました先生は「君の授業はとても素晴らしかった」と何度も言って下さいました。さらにクラスの生徒からは「簿記は嫌いだったけれど、大地先生の



説明は素直に受け入れて聞くことができた。ベテランになっても常に生徒の気持ちがわかる教師でいて欲しい」と言われ、まさに教育実習をやって本当に良かったと思えた瞬間でした。予期せぬ一言の連続に感極まる思いでした。

教育実習で学んだこと。それは商業高校には人を創るべく2つの‘格’があるということです。1つは資格であり、もう1つは人格で

す。人生をより良く生きるために勉強し、その努力の証として資格を与えられることになりましたが、そのみならず人格を磨く必要があると指導教諭より学びました。振り返ると実習期間はアツと言う間に過ぎ去って行き、慣れた頃には期間終了を迎えるものです。事前に教育実習の意義をしっかりと認識し、こうしていきたいというイメージを確立することが大切で

す。そのためには計画が大切であり積極的な態度とチャレンジ精神が必要不可欠です。実習中は肉体的・精神的に厳しく感じるがありますが、実習をさせて頂いているのであるという感謝の思いで突き進む心を持続できれば、実習を有意義なものとすることができると確信します。



中央が大地さん

教育実習を終えて（情報）

神奈川県立ひばりが丘高等学校 経営学部経営学科 4年 今西 裕介

私は教育実習をするにあたり、たくさんの方々に協力していただきました。実習に行くまでには、2つの問題点がありました。1つ目はなかなか実習校が決まらなかったということです。母校には情報の先生がおらず、教育実習を受け入れてもらえませんでした。地元の高校にお願いしたのですが、卒業生以外は受け入れられないと断られてしまいました。大学の先生方に協力していただき、神奈川県立ひばりが丘高校に実習に行くことが出来ました。

2つ目の問題点は、大学の部活との両立でした。私は体育会準硬式野球部に所属していたため、春の大会が3月下旬から5月下旬まであるものの、実習は6月からだと思っていたので、部活と実習が重なることはないと思っていました。しかし実際には、実習が5月22日からであるということがわかり、実習

に行くべきか、実習を断り部活を優先するべきか大変悩みました。しかし、試合に出させていただいているということや、春の大会に優勝し全国大会で活躍することだけを目指し、この4年間日々活動してきたということもあり、大変失礼だということを承知で、実習を断り教職をあきらめる決断をし、部活のコーチや監督、また教職課程の先生に相談しました。しかし、先生方からは、「お前の気持ちはわかる。しかし人生において教育実習という貴重な体験をする機会はそうはない。もう少しよく考えてみなさい。」という言葉

からは「お前がいなくても、チームはまかせろ。必ず勝つから。」と言われ、実習の直前まで、本当によく考え悩んだ結果、実習を選び、最後の3試合を残し部活を離れる決意をしました。

実習ではとてもたくさんのことを学びました。始めは、生徒となかなか会話することが出来なかったのですが、自分から心を開き話しかけたり、挨拶を交わしたりすることを積み重ねた結果、1週間が終わる頃には生徒との距離が



とても近くなりました。授業では、勉強の嫌いな生徒にいかにかわってもらえるように出来るかということ自分の中のテーマとし、事前に準備をたくさんしました。授業では、なるべく生徒ひとりひとりの顔を見ながらハキハキと大きな声で授業をするよう心掛けました。毎日が緊張の連続であり、辛いこともありましたが、大変勉強になりました。実習中は、部活に参加するため、出来る限り校庭にいましたし、生徒と多くの話をしました。実習一番の思い出には体育祭があげられます。私の母校は全生徒が3000人近くいましたので、近くの市営陸上競技場を貸し

きっての陸上大会だったため、高校の体育祭を経験したことがありませんでした。体育祭の何日も前から、応援の練習を朝と放課後におこなったり、それぞれの係で協力し準備を進めたりしている姿も含め、生徒が主体となり体育祭を作り上げ、一致団結し、嬉し涙や悔し涙を流している生徒の姿を見ることができ、競技をしていない私もとても胸の熱くなる思いをしました。

3週間という期間は実習に行くまでは、長いと思っていたのですが、実際に行ってから毎日楽しく、充実し、あっという間に1日1日が過ぎていきました。もちろん大変なこともありましたが、純粋で、素直で、一生懸命な高校生と過ごした3週間はとても貴重な経験になりました。高校生は難しい年であると思えずし、素直で純粋な分、思い通りに行かず苦労

をすることもあると思いますが、自分自身が何事にも一生懸命で誠実な姿勢であれば、必ず生徒達は理解し受け入れてくれ、また本気で接してくれるはずです。また、それぞれ置かれている状況は違うと思いますが、体育会の学生であっても、すぐに諦めるのではなく、まずトライしてみてください。私は本当に最後の最後まで悩みましたが、その分実習に行った際、一つ一つのことがとても大きな感動になり、悩んだことも、この選択肢を選んだことも、今では自分の大きなプラスになっていると思っています。辛いことも多々あると思いますが、頑張ってください。

教育実習を終えて（数学）

神奈川県横浜市立共進中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 佐藤 高史

私は、6月5日から23日までの3週間、母校である横浜市立共進中学校で教育実習を行いました。小学校の卒業文集に“将来の夢は学校の先生”と書いているほどに教師を目指しており、自分が好きな教科である数学で教師になりたいと思うようになりました。大学の教職課程を履修することで、数学の教育免許を取得することができるため、教職課程を履修する事を決意しました。

教師になるためには、誰しものが必ず通る道である、“教育実習”。初日は期待と不安で胸がいっぱいでした。3週間という短い期間であったため、精一杯自分自身ができることにチャレンジしようと実習に臨みました。

教育実習が始まると、刺激的な毎日を送ることになります。生徒とのやりとりや、教科の準備など、実習中に行なうことはたくさんあり、充実した日々を送ることができました。

実習4日目までは、指導教官の先生や他の先生方の授業見学を行い、指導案作成や、板書計画の勉強をさせて頂きました。そして、実習5日目から、授業をやらせてもらうことができました。前日までに、指導案や板書計画を準備し、担当の先生からどのように授業を進めていくか、どのような方法で生徒達に教えればいいのかなど、

たくさんのアドバイスを頂くことができました。授業自体は、準備したものをやるだけなので、いかに準備を入念に行なうことができるかが重要です。私は中学1年生の“文字式”という単元を担当させてもらいまし

たが、授業前までに指導案を作成するのが本当に大変で、日々遅くまでより良い指導案になるように模索していました。実際に授業を自分でやってみると、生徒とのやりとりや、生徒の様子など、クラスによって進むペースが変わるため自分が計画したとおりに授業を行なう事は難しく、柔軟に対応することが必要になりました。しかし、生徒の様子が段々と分かってくると自分もどのように対応すればいいのかが分かってくるので、授業を進めるペースを掴むことができるようになりました。実習校では、1クラスを半分に分け小人数で数学の授業を進めています。そのため、全生徒に目を配るように心掛けました。生徒に問題を解かせる場合、全生徒に解答をノートに書かせ、出来たら先生に見せに来るという方法を使い、問題を解けなかった生徒に対して個別で指導することが出来ました。また、問題を解くことができた生徒に、黒板に解答を板書してもらい、発表してもらう方法を取ることで生徒のやる気を促しました。生徒が授業を受けて、“楽しい”と思えるような指導案作りを心掛け、それが授業で発揮できるようにしました。

研究授業では、文字を含んだ計



算を説明する際に、パワーポイントを利用し視覚的に説明する指導案を作成しました。文字を含んだ計算では、同じ文字の項どうしをまとめ計算します。教科書では面積図を利用し説明していますが、わかりにくい表現だったため、もっと生徒達が簡単に視覚的に理解できないかと考えた結果、パワーポイントを利用した授業作りになりました。この説明方法は、生徒も簡単に文字を含む計算方法を理解してくれましたし、先生方にもパソコンを利用した授業に関心を持って頂きました。

教科以外の実習もたくさんのごことを学びいい経験になりました。朝のホームルームや帰りのホームルーム、そうじの時間など生徒と触れあう時間はすべてが新鮮で刺激的でした。

これから、教育実習に臨む人へのアドバイスですが、実習に取り組む姿勢で大きく変わってくると思います。自分自身が本気で学びたいと思うなら、事前に教科について学んでおくことが重要だと思います。また、実習が始まれば、生徒や先生とのコミュニケーションを大事にし、実習を楽しんでもらいたいと思っています。そうすれば、おのずとたくさんのことを学ぶ事ができると思います。



介護等体験を終えて

法学部法律学科3年 小林 誠丞

私は、介護等体験として都立葛飾養護学校に2日間、八王子市障害者療育センターに5日間行ってきました。この合計7日間で、私は普通の大学生活では学ぶことができないことをたくさん学ぶことができました。しかし、いろいろな失敗もしてしまいました。これらの失敗もこれから体験する人にはしてもらいたくないので、隠さずに書きます。

養護学校での体験は、体育祭の予行と当日の補助をおこないました。養護学校の体育祭なので特別なものかと思っていましたが、実際は自分の小学校の頃の体育祭と同じでした。やはり、やる気のある生徒がいると思えば、全くやる気のない生徒もいて、やる気のない生徒にはどのようにすればやる気をださせることができるのかということも考えさせられました。また、複雑な質問をわかりやすく、簡単に説明する難しさも実感しました。また、リレーで他のチームのアンカーがゴールした後にスタートした生徒が一生命に走っている姿がとても印象に残りました。そして、一緒に体験した日本体育大学の人とも仲良くなることができました。

福祉施設の体験は、身体の障害だけでなく知的障害も併せ持った人の日々の活動の補助をしました。この時、一緒に体験したのはいつも一緒に教職科目を受講している2人の同級生でした。そのため、学生内でコミュニケーションをとるのには苦労しませんでした。私が担当したクラスは、障害の程度が施設のなかではもっとも軽く、

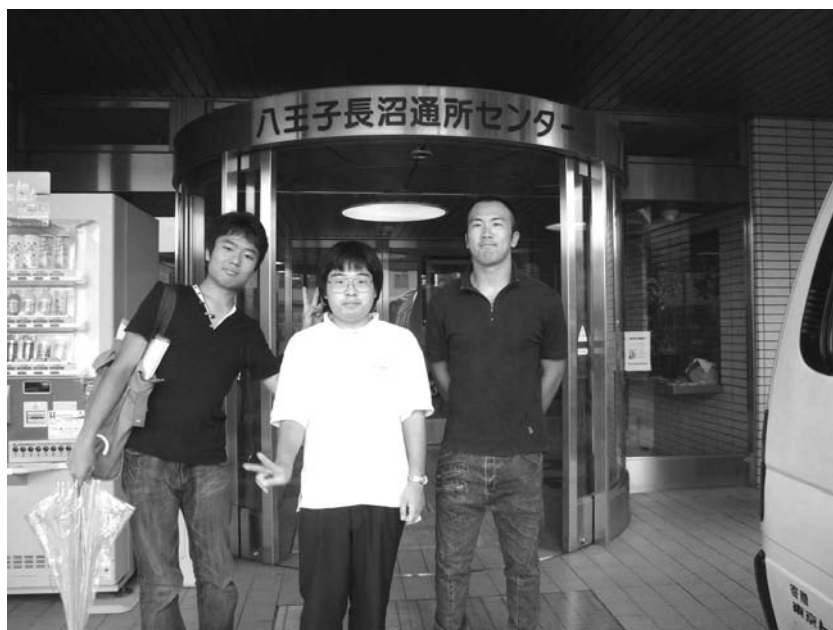
普通に歩ける人や、言葉でコミュニケーションをとることができる人たちのグループでした。そのため、普通に会話をしたり、活動したりすることができました。しかし、時々問題も起き、最初のうちは対応できませんでした。しかし後半になると、ある程度は対応できるようになりました。グループの皆さんと外出したときに車いすの人の補助を行い、普段の生活では気付かないことにもいろいろ気付くことができました。

しかし、ここではたくさん失敗もしてしまいました。利用者間の行きちがいを調整できなかったり、体調の変化に対処できなかったり、運動したときに筋肉痛になってしまったりしました。そして、最後のお別れ会の時、体験の学生は何か一つ披露することになっていたのですが、サークルの全学応援団吹奏楽部で普段吹いているクラリネットを演奏しました。普段吹いてい

る曲は普通の人では理解できない可能性があるもので、高校時代に吹いた曲を演奏しました。しかし、練習の時間がなく、十分な音出しもできなかったこともあって大失敗しました。でも、みんな喜んでくれました。

無事5日間の体験が終わり、修了証をいただき、無事体験も終了と思ったら、体験実施日誌を家に忘れてきてしまっており、もう一回施設に行くことになってしまいました。施設が近いところだったので、翌週の月曜日の午前中にボランティアをかねてサインをいただきました。体験した施設が遠いところだったら大変になっていたと思います。これから体験する皆さんは、絶対に忘れ物をしないようにしてください。

この体験を終えて、本当にいろいろなことを学びました。また、機会があればボランティアもしたいと思います。



中央が小林さん

司書・司書教諭課程



「児童サービス論」ノート — 「子どもの本」と出会う手がかりに —

文学部 兼任講師 長谷川 幸男

1. はじめに

— 「子どもの本」にこだわる —

図書館法には児童図書館の規定はない。そして、児童サービスを謳いこんだ条文もない。とはいえ、「第三条（図書館奉仕）」を、「国民の権利としての図書館」の具現と認識すれば、規定外の児童図書館、そして児童サービスも創造されたことに異議はないはずである。また、「図書、記録その他必要な資料」、すなわち、人間が作り出したすべての文化財を図書館資料と規定しているが、「子どもの本」とはの規定はない。ここで、図書館資料を羅列しないが、乳幼児・児童・生徒を対象とする文化財は、さしずめ児童図書館資料というのだろう。

少し構えすぎてしまったが、授業「児童サービス論」のなかで、とりわけテキストとして取り扱うのは、乳幼児・児童・生徒が必要とする図書形態の著作物である。どうにも児童図書館資料はなじまないと思うので、それらを「子どもの本」と措定している。

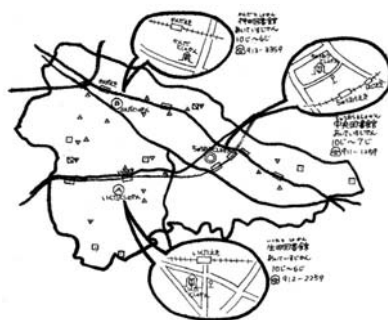
2. 授業でめざすもの

「講義要項」に「1. 授業の目的」で「公共図書館における児童サービスは、自ら学び創造する生涯学習の地平をてらす灯といえる。／児童図書館の理念を敷衍しながら、子どもをとりまく社会・文化・歴史のいまにきりこんで、児童サービスの可能性を探る。」と書いた。

ただし、授業のはじめに次のように補足している。「公共図書館の現場を可能なかぎり再現することをめざす！」と。そして、「授業への参加（後に事例を示す）！」を期待すると…。

2. ー1 専修市は、中都市の典型！

授業は、専修市（人口15万人、面積18平方キロ）を想定して授業を展開することになっている。実は、川崎市多摩区を引き写しただけなのだが…。



2. ー2 授業の展開

公共図書館の現実は大変きびしいものがある。それは児童図書館の経営にも反映する。予算をとまなうすべてに関わることはもとより、図書館サービスにその影を落とさないわけにはいかない。

とりわけ、人（図書館員）の問題は深刻である。リストラ（構造改革）の名のもとに、正規職員の定数見直しによる削減と、そのための臨時職員あるいは、嘱託職員の任用に司書有資格者をあてたとしても図書館経営を真に発展させはしない。まして、指定管理者制度の導入により管理・運営を民間委託にすることは、上記の人と深く関わり疑問を投げかける識者・図書館人は多い。かりに、雇用の機会・均等の拡大は期待できるとしても、司書をめざす学生に現実を伝えることは、はなはだ心苦しい。しかし、現実をしっかりと伝えることを使命と考えている。それは、現実と真摯に対峙することによってしか、自らを奮い立たせることができないと自負するからだ。

さて、「授業の展開」（「授業のイメージ」ともいっているが）だが、一つには、前述した現実を開示することになるのだが、図書館・「子どもの本」・読書・子ども、そして、

それらにつらなる事象を切り取って伝えたいとねがっている。

本の中の世界？

小峰 克彦

（千葉市 小倉小6年）

ぼくが勇者の本を読んでいると／
いつの間にかジャングルの中で／
剣をにぎっている

ぼくがSFを／読んでいると／いつ
の間にか未来／都市のビルの中で
ロボットと話を／している
本ってまるで／もう一つの世界だ
なあ

*読売新聞「こどもの詩」

（2004.1.26（月））より

上の詩は、その一つで、「みなさんも、小峰克彦くんと同じように本の世界に遊んだことがあると思いますが、いかがですか？」とコメントを加えながら…。

二つには、児童サービス担当として、図書館経営の現場に立って欲しいとねがってのことであるが、授業参加の一つとしてとらえている、班（8名ぐらゐを構成員）編成による「児童用図書館利用案内」の作成である。下図は作品の一部であるが、アイデアを公共図書館に提供したいほどだ。

三つには、やはり授業参加の一つとしてとらえた、学生に課した「わたしの一冊」（子どもの本に限定）のレポートを取りあげ、学生の感想・印象を引用しながらの作品の紹介である。この試みは、授業のなかで、「子どもの本」を紹介



する時間的ゆとりがないと判断して、少しでも多くの「子どもの本」との出会いを保障するためだ。

多感な時期を野球にける原田巧と永倉豪をはじめとする少年たちを生き生き描いた、あさのあつこ著『バッテリー全6巻』（佐藤真紀子画、教育画劇、1996.12～2005.01）をとりあげたときのことだ。「自身の可能性や能力をしっかりと見定め、その上で周囲と向き合い成長していくことが大切だと伝えたいのだ」、「大人も是非、読んで欲しい」という学生のメッセージを紹介しながら、情報として得た、右図（柚庭千景作・画、角川書店（2005.03）刊）の劇画（マンガ）を紹介するのも読書の深さを体現できたと確信できる。

四つには、前者のさらなる展開として、読書案内『さる〜きー』の班編成による作成である。各班ごとに幼年児童文学作品をテキストに役割分担しながらの挑戦である。

下図は、成果の証である。



3. ブックトーク

—自己紹介をかねて—

公共図書館の「児童サービス」を支えるのは、「子どもの本」の構成と人であることは自明のことだ。その論述はおくとして、児童サービスの花形は図書館行事である。

おはなし会、映画会、読書会、ブックトーク、アニメーション、科学あそびの会、手づくり教室 etc.

授業では、そのいくつかを実演するわけだが、ここでは、自己紹介をかねてブックトークのさわりを開陳しよう。

はじめに、『1こでも100このりんご』（井上正治作・絵、岩崎書店、1993.06）を読む。

ふるぼけた果物屋の店先に1このりんごがある。そのりんごを見つめる画家、医者、音楽家、小学校の先生、出稼ぎの人が、それぞれの思いを語るという展開の絵本である。

次に、脳性まひのため手足などに障害を持ち、外出するときは車椅子を使う著者が、人間としてのねがいをつづった車椅子を主人公にした絵本『わたしはやねん』（吉村敬子文、松下香住絵、偕成社、1980.10）を読む。ときには、大阪出身者に読んでもらおう。車椅子が著者といっしょに布に包まれて小さくなっていく前半、「ケーキもた

べるしジュースものむ／くさいうんこも きいろいおしっこもでるでエ」と叫んで、車椅子が次第に巨大化していく後半は自己実現そのものを謳いあげる稀有な作品である。

次は、「ナチス

がやってくる、まえのことです…」と語りだす、ユダヤ人の子もたちを写した写真絵本を、「ぼくはぼく、わたしはわたしといったかったにちがいない」と、コメントして、『おもいだしてくださいあの子どもたちを』（チャナ・パイヤー

ズ・アナルス構成・文、おびただず訳、ほるぶ出版、1989.09）の頁をめくる。

そして、「教室のみなさんが同じ顔だとしたら？」と、問いながら、日本国内にある動物園のゴリラ、アザラシ、タヌキ、カバの顔写真がつまった『みんなのかお』（さとうあきら写真、とだきょうこ文、福音館書店、1994.11）の頁をゆっくりとめくる。

さらに、『絵ときゾウの時間とネズミの時間』（本川達夫文、あべ弘士絵、福音館書店、1994.04）をひもとき、「いのちの鼓動の個性」を説きながら、「すずと、小鳥と、それからわたし、／みんなちがって、みんないい。」と金子みすゞの詩『わたしとことりとすずと』を読む。前記の読売新聞の「子どもの詩」を読むこともある。

最後に、『わたし』（谷川俊太郎ぶん、長新太え、福音館書店、1981.02）を読み、総括する。すなわち、「ぼくはぼく、わたしはわたし、そして、おおぜいのなかのひとり」と結び、サインし、



わずかに履歴を開示する。

実際には、もっともっと多くの、ジャンルやグレードを超えたテキストを提示する。「人間とは？人権とは？自由とは？差別とは？戦争とは？」へと発想の飛翔を意図してのことであるが、なによりも、読書のたのしさ、ゆたかさを、作品そのもの、作中の主人公や登場人物（動物）、そして、著作者とのコミュニケーションにいどみながら、味わってほしいとねがっている。

4. おわりに

「子どもの本」、それも絵本の紹介に後半は費やしてしまった感もあるが、「児童サービス論」の授業を実感してもらえればさいわいである。

卒業生から—特別な教育的ニーズを持つ児童生徒と 学校図書館のかかわりをライフワークとして—

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士課程後期在学中 松戸 宏予（昭和57年 文学部人文学科卒業）

このテーマの最初のきっかけは、小学生時代のことが発端となっています。小学校3年の頃、担任の「おまえたちは大馬鹿三太郎でなくて、五太郎だ」といった言動や、早生まれで、体力的に劣っていたこと、学習も成績はオール2、親しい友だちもなく何かあるとすぐ嘔吐してしまう子どもでした。その頃、学級文庫や公共図書館を利用することがありました。たぶん無意識だと思いますが、図書館をひとつの逃げ場にしていたと思います。この頃の体験が核となって、専修大学卒業後、中学校で常勤講師を3年勤めた後、特別支援教育関連の仕事に進みました。仕事は、公立の中学校に特別支援学級の介助員3年間、知的障害者更正施設の1年4ヶ月、青年海外協力隊の隊員として、ヨルダンの特殊教育センターでの2年1ヶ月です。

中学校の障害児学級の介助員として携わっていた頃、経験学習や知識学習の教材として、学校図書館や公立図書館から絵本や紙芝居、関連資料をよく借りていました。しかし、当時、特別支援教育は学んでいても、例えば紙芝居のどれを選んだら良いのか、資料について認識があるとは言えませんでした。ましてや特別な教育的ニーズをもつ生徒の自由読書の有効性や図書館利用についてもです。そのため、知的障害者更正施設やヨルダンの特殊教育センターの生徒に対しても、読書との関わり、図書館との関わりといった教育の視点はありませんでした。

その後、ヨルダンでのボランティア活動を終えたあと、(社)青年海外協力協会で、青年海外協力隊員希望者に向けた応募相談の一環として資料を収集・加工する業務を担当しました。そのとき上司の

「司書の資格を取ると良い」がきっかけとなり、再度、専修大学の履修生として、司書課程と司書教諭課程を学ぶことになりました。「学校図書館経営」で生徒との関わりがもてる学校図書館の存在や、「図書館活動」や「児童サービス」で、障害者サービスを知りました。また、協力隊員だったときに、資料について、また、生徒の図書館利用について自分自身が認識していたら、またアドバイスを与えてくれる学校司書がいたら、同じ紙芝居を読むにしても教育効果は違っていただけないかと自分自身を振り返るきっかけともなりました。

司書課程で学んだことがきっかけとなって、履修後、臨時職員として、中学校の学校司書として図書館運営に携わることになりました。しかし、学校図書館に携わって、実際の生徒との関わりのなかで、LD、ADHD、高機能自閉症、不登校傾向ぎみの生徒など、特別な教育的ニーズをもつ生徒が図書館にも来館していることに気がつきました。彼らとの関わりを通して、対応の問題など、自己研修では限界があること、また、非常勤としての学校司書の立場の弱さ、これらをなんとかしたいと思ったことが、きっかけとなって大学院で体系的に勉強する必要性を感じました。その頃、中学校と併せて、コンピア大ティーチャーズカレッジにおいても司書として関わっていたのですが、そこに集う社会人が勤務と勉学を両立させていたことに、刺激を受けたことも背景にはありました。

そして、東京学芸大学大学院で「特別な教育的ニーズを持つ児童生徒と学校図書館の

関わり」を修論テーマとして、関連科目を履修していったのですが、まだ上記のテーマに対するこだわりが残り、筑波大学大学院の図書館情報メディア研究科の博士課程後期に進みました。それはひとりでも研究を続けられる基礎力を学びたかったことと、研究テーマにいくらかでも近づきたかったからです。

現在は、非常勤ですが、「読書と豊かな人間性」という科目を通して、特別な教育的ニーズをもつ児童生徒への読書支援をプログラムに盛り込ませてもらい、また私の研究テーマに興味を持ってくださった足立区の社会教育課から、社会教育委員として2年間、足立区の学校図書館に関わりを持つことになりました。行き着く先は分かりませんが、ミッションとしてこれからも、「特別な教育的ニーズを持つ児童生徒と学校図書館の関わり」に関連した、マイノリティの立場から研究に関わっていきたいこと、それが学校図書館の現場の人たち（自分も含めて）の何かしらの参考になればと思っています。



図書館実習を終えて

青森県むつ市立図書館 日本語日本文学科日本文学文化専攻 4年 氣仙 悠子

司書・司書教諭課程

Pana & Pana

私は夏季休暇中の2週間、青森県むつ市立図書館で図書館実習を行いました。むつ市立図書館は、2000年4月に現在の場所に移転し、新たに開館した図書館です。これまでに何度か利用したことはありましたが、実習の初めの頃はとても緊張し、実習を無事に終わることが出来るか不安でいっぱいでした。しかし、職員の方や図書館奉仕員の方が、作業の内容などを丁寧に教えてくださり、実習はすぐに楽しいものになりました。

実習1日目は、図書館業務や資料選択、財政、施設管理、相互貸借などの講義を受けました。授業で学んだことよりも、さらに詳しく公共図書館の現状について知ることができました。公共図書館では、それぞれの地域の特色を生かした運営が必要であり、また、地域によって問題点も様々で、大学図書館との違いを感じました。2日目からは、資料の登録・装備作業、図書整理など、通常の図書館業務の実習を行いました。

その中で特に印象に残った仕事が、レファレンスです。むつ市立図書館では、独立した相談カウンターがあり、利用者が資料について尋ねたり、本をリクエストしたり、図書カードを作りに来ていました。日によって相談カウンターの利用者数は違いますが、館内で作業や見回りをしているときにも、利用者に本の場所や所蔵の有無を聞かれることがありました。このときに、すぐに答えられたのは、毎朝の図書整理の成果だと思います。30分間という短い時間ですが、本の分類や所蔵場所がすぐに分かり、利用者に聞かれたときや配架のときにとても役に立ちました。また、資料の内容についても聞かれることがありました。数多くあ

る資料の内容を、すべてを把握するのはとても難しく、利用者の要求している本を提供することの難しさを感じました。

また、資料の装備作業にも苦労しました。図書が傷むのを防ぐために、ビニールを貼り付ける作業がとても細かく、何度か失敗してしまいました。地味な作業でしたが、慣れてくると楽しくなり、大型の写真集など、いろいろな種類の図書の装備をしました。AV資料、雑誌、図書によって装備作業は少しずつ違うのですが、雑誌の装備作業が想像していたものとは少し違っていました。最近、図書館では雑誌の切り取り・切り抜き被害が多く、様々な対策がとられています。その作業とは、切り抜きしにくいようにテープを一枚一枚貼り、切り取られそうな懸賞の応募券や葉書きには、判を押し使用できなくするというものです。週刊・隔週刊・月刊・月2回刊など発行回数の違いはありますが、約100種類の雑誌が図書館にはあります。被害に遭いやすい雑誌の数は限られてきますが、それでも大変な作業です。

他にも、おはなし会での読み聞かせ、カウンター業務、分館作業

など様々な実習を行いました。読み聞かせは、子供たちの前で読むということとはなかなか無いと思うので、とても良い経験になりました。子供が来てくれるか、楽しんでくれるか不安でしたが、真剣に聞いてくれてとても嬉しかったです。何度も読み聞かせをしている職員の方やボランティアの方は、子供たちに問いかけたり、話しかけたりして本に集中させ、子供たちを楽しませている様子が印象的でした。また、カウンター業務では、「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」と、子供から大人までひとりひとりに声をかけ、気持ちよく利用してもらいたいという姿勢を感じました。図書館員の仕事は、本だけを相手にするのではなく、人を相手にする仕事が重要であると改めて思いました。

10日間という短い期間でしたが、授業だけでは分からない図書館業務、図書館の現状を知ることができました。戸惑うこともたくさんあり、失敗することもありましたが、図書館で働くことの大変さや楽しさが分かり、とても良い経験になりました。



図書館実習を終えて

千葉県市川市立中央図書館 文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻 4年 野口 恵実

私は8月前半の2週間、千葉県市川市にある「市川市立中央図書館」へ実習に行きました。中央図書館は全国的に有名な図書館の一つで、中央図書館・映像文化センター・教育センター・中央こども館の4つの施設から成る複合施設として建設されました。市内では一番の規模を占め、土・日の混雑は相当なものでした。

実習生は私も含め4人。朝8時50分から夕方17時20分まで、職員の方が用意してくれたスケジュール表を元に動きました。主な内容は講義、カウンター実習、予約本処理、配架作業等、図書館に関わるあらゆる業務に取り組みました。授業で学んだことを確認できると同時に、それ以上に授業では知りえない・実習したからこそ気づくこともたくさんありました。

実習プログラムで、今年から導入されたのが「講義」です。館内での作業がメインだと思っていたのですが“それだけでは実習の意味があるのか”ということで実際に職員の方が講師となり、図書館の行っているあらゆる業務についてパワーポイントを使って、説明して下さいました。特に興味を惹いたのが「図書館の管理」と題された財務・危機管理の話です。図書館は図書資料費や施設維持費・装備委託料などあらゆる業務にお金がかかります。そして毎年の基本的な支出に加え、リクエスト本にかかる図書費の増加や土日利用者急増に対するアルバイト職員を増やしたい・・・など毎年の予算内では賄いきれないという現状をお聞きすることができました。けれど市民の利用向上のため“出来ないではなく出来るという姿勢で臨む”と力強い言葉を聴くことができました。危機管理が叫ばれてき

たのは、日本ではつい最近のことだそうです。資料紛失対策や災害対策・・・あらゆる状況を想像しておくことが図書館には必要だということ。今回の講義で、図書館を支えているものをより深く知ることができ、本を手にとる際にもまた新たな目線で図書館を考えるきっかけに繋がったと思います。

そして私が何より楽しみにしていたのが、子ども図書館での実習です。ここ中央図書館（一般向けとするなら）には、絵本や児童文学など子どもを対象とした「子ども図書館」も独立して設置されています。図書館に一步入ると、子どもの想像を掻き立てる空間が広がっています。まず海をイメージした室内で、天井にはかもめが飛んでいるような照明、本棚は波しぶき、机や椅子はそれぞれ島をイメージしています。これを聞くだけで絵本の世界に入ってしまったかのような楽しさを感じます。おはなし会も見学しました。部屋の照明を暗くし、ろうそくを巧みに使って子どもたちをお話の世界へと導きます。おはなし会はボランティアを置かず、子ども図書館専任の職員が行っているそうです。嬉しかったことは、私が本棚に並べた絵本を、子どもがすぐその場から選んで読み始めたこと

です。また一冊また一冊と次々に本がなくなっていくます。次はこの絵本を紹介しよう・・・と子どもたちがまだ出会っていない本を提供する喜びを感じました。本と人をつなぐことこそ、司書のやりがいなのではないかと思いました。

他に、中央以外の市内図書館での実習もあり、大規模と中規模図書館での市民との距離・雰囲気の違いも肌で感じることができました。

今回の図書館実習では、カウンターでの作業もカウンター以外の見えない裏方の作業も両方、一人の利用者の手に本が届けられるまで全てが繋がっている作業であり、一つ一つに気を配らないといけないう究極のサービスだと感じました。実習で得た経験は、これからの私にプラスになる良い経験になったと思います。



学芸員課程



日本文化史の講義を担当して思うこと

文学部 教授 青木 美智男

楽しい毎回書いて貰う感想文

私が専修大学文学部で日本文化史の講義を受け持って10年になる。この科目は、学芸員資格課程の科目ともなっているので、毎年わずかながら、経済学部や商学部などの学生諸君が受講している。私は試験はやらない。文化史の学習が暗記物であるという印象を与えてしまうからである。その代わり出席の確認も含めて毎回授業の最後に感想文を書いてもらい、その回数と内容、そしてちょっとしたレポートで成績を判断することになっている。

だから講義の資料は、感想文を書くさいの参考になることも配慮して必ず配布する。文化史は思想史ではない。頭で考える前に作品を目で見て鑑賞することが第一である。必要であれば、カラーコピーを何枚でも配布して鑑賞してもらう。私はOHPとかパワーポイントとか、最新の機器を使って画面で講義をすることをしない。あれは頭を事物が一瞬で通過しすぐ忘れてしまう安上がりな講義方法と思っているからだ。人間はそれほど記憶力は良くなく、感動も持続しない。そこでコピーであれ手元に材料が残ることが大切だと思っている。講演や学会報告と講義を区別できない方々の教育方法の一つだと思っている。

講義に対する感想文は、読むのが楽しい。どこまで私の思いが理解されているか。なにを期待しているか。受講生とのそんな対話の場であるからである。100名近い出席者からのメッセージだからさまざまだが、共通性もかなりあるので確信が持てる。私は最初の授業で、書いていただいた感想文は最後の授業の時間に全部お返しすることを約束する。一年間、自分

がどんなことを書いてきたかを受講生自身が確認できるからである。20数回分の感想文は、彼らにとって成績を自己採点できる判断材料ともなり、文章能力と鑑賞力の成長過程を確認する記録でもあると思っている。

「今日の講義は、二日酔いでほとんど聞いておりません」とか、「冷房が効きすぎて寒くて何も書けません」などという感想文を最後の講義のさいに返される。しかしそれを読み直したときどう思うだろうか、自分自身が想像したとき、いつもそんな態度で講義に臨む学生はいない。だから多くの学生は授業中は真剣そのもので、ほとんど私語がなく緊張した時間を共有できる。

そんな受講生の感想文を10年近く読んできた。そんなことをベースにお話しをしてみたい。

博物館や美術館で感性を豊かに

提出された感想文を読む時、一番楽しみなのは後期の授業開始時の感想文である。夏休み前に1時間とって、文化史の時間に取り上げた作品を所蔵する博物館や美術館などを紹介をして、近くに行くことがあったら立ち寄ることを勧める。なんといっても実物、つまり本物を鑑賞するのが、もっとも大きな感動を呼ぶからである。迫力が違う。本物を見たか見ないかで、教師になったり学芸員になったりした時に、説得力が倍増したりしなかったりする。生徒たちや鑑賞者に与える影響力がまるで違う。自信が生まれる。だから博物館や美術館に足を運べ、京都や奈良・鎌倉などの古寺を訪ね、美しさに触れようと呼びかける。

そして夏休みが終わる。私の話に刺激されてどんな夏休みを過ごしたか。そんな期待が持てる感想

文が楽しみなのは当然だろう。今年は9月22日（金）4限がその日だった。

当然私の博物館訪問記も話す。8月2日（水）、高校の歴史担当教員の皆さんに行なった「高校教育に役立つ歴史研究の最前線」という講座の最後に案内した川崎市立日本民家園の魅力をたっぷり紹介した。

最後に回収した感想文を読んで、大学のすぐ裏側にある日本民家園に一度も行ったこともない受講生の多さに驚く。さらに学芸員資格を取り将来働きたいと志している受講生の中に、どこの博物館や美術館にも足を向けようとしないうことを平然と書かれて愕然とする。そんなことを堂々と感想文に書ける精神構造に暗然とせざるをえない。

学芸員にでもなりたいたいのなら、重文がずらっと建ち並ぶ民家園や岡本太郎の美術館に何度も足を運び、その面白さを体験するのが普通だろう。そこで巨大な合掌造りの迫力に圧倒され、実物を鑑賞することのすごさから歴史を調べてみようと思うことだろう。そして民家がどういう人々の手で支えられているのか、祖父母や父母の仕事にも関心を持ち親しみを持つに違いない。なんでそんな情熱が沸かないのだろうか。

日本民家園の研究員の方から、専修大学の学生さんはほとんどお見えになりませんよ、と言われたことがあるが、あれ以来、それは私たちの教育に問題があるのではないのか考えるようになった。自然や環境、そして伝統を守ろうとする現代人の課題に関心を持つとき、かつて公害の町と呼ばれた川崎市の都市再生のこの試みは、すばらしい学習素材となることは間

違う。そんな施設が身近に存在するのに、見向きもしない教育を我々自身がやってはいないだろうか。なんともったいない話であると思う。

ただ多くの受講生たちの感想文を読んでいて、私はいつもホッとしている。バイトで稼いだ金を使って、旅先でさまざまな施設を訪問し、これまでと違った見方で本物を鑑賞し感動してきたことを、楽しげに書いてくれる。石川県立美術館で野々村仁清作の雌雄の雉の香炉（国宝・重文）に出会ったときの静かなる感動、富山県高岡市の国宝瑞龍寺の境内を散策したときの、なんとも言えない安らぎを率直に綴ってくれる。時には猛暑もなんのその、京都の美術館や寺院を回って得た感動をレポート

にして、これ読んでみてくださいと持ってきてくれる学生もいる。学生諸君と喜びを共有できる楽しい時間である。そしてそういう経験が、学芸員の資格を取ったらどこかの博物館で働いてみたいという甘い願望を、おれはやるぞという確信に代えてくれる。本物の作品にはそんな魅力や魔力がある。

専修大学の学生たちの多くは感性豊かである。私はこの10年間、いつもそう思い続けてきた。それをさらに豊かにするのが真の教育ではないかとも思ってきた。そんなときいつも思うことがある。それはどうして自ら博物館や美術館を持たないのか、ということである。専修大学にはそんな文化施設をつくるだけの資材も資力も十分にあるはずである。大学は本物に

接する機会を学生たちに与えるべきである。さらに特別展や講演会、公開講座を開いて学生や市民へアピールし、他の博物館や美術館と連携して新情報を提供し、どんなレファレンスにも即応できる体制をつくれば、すぐ裏にある日本民家園に多くの学生が訪れることもなく生田校舎を去るような現象も起こさないだろうし、新たな感動をもって大学を卒業していくだろう。そしてなによりも専修大学のスローガン「社会知性の開発」のシンボルに相応しい施設ではないかと思われてならない。

優れた学生諸君の感性をもっと豊かなものにしよう。資格課程の教育にはそんな責務があるように思う。



日本民家園 撮影者：文学部教授 樋口 映美

卒業生から

すみだ郷土文化資料館勤務 西村 健（平成16年 文学研究科歴史学専攻修了）

私は、平成14年（2002）に学芸員資格を取得して大学院に進学した後、埼玉県八潮市立資料館の臨時職員（バイト）と非常勤職員を経て、平成17年（2005）8月に墨田区立すみだ郷土文化資料館の専門員として採用され、同館の学芸員として勤務している者です。

すみだ郷土文化資料館は、平成10年（1998）に開館した比較的新しい資料館です。墨田区は、震災と戦災によって地域資料の多くが破壊されたため、収蔵資料は他の地域の資料館に比べるとかなり少ないですが、当館では、空襲体験者の方々によって描かれた「空襲体験画」の収集など、区民の方々との協力関係の中で新たに資料を作り出す取り組みを行っており、徐々にその成果が周囲に認められつつあります。私は、近代史の専門員として明治以降のテーマをあつかった企画展を担当することに始まり、近代資料の収集・整理、および区内の近代産業と震災・戦災関係の資料の調査・研究を行っています。また、隅田川が発祥のレガッタを研究するため、墨田区の漕艇部に入部し、隅田川のボートレース大会に参加するなど、バラエティに富んだ学芸員ライフを送っています。

学芸員資格を取得し、地域資料館での学芸員採用を目指される方に私から伝えたいことは、とにかくこの仕事には現場での経験と、他者とのコミュニケーション能力が求められるということです。「展示で何を表現するのか」といった命題には個人で向き合うしかありませんが、その他の仕事はすべて他の人々との人間関係によって成立し、知識よりも経験の方が重要であることを今まで痛いほど感じ

てきました。ですから、この場では概念的なことではなく、実際に現場に出て経験を積むにはどうしたらよいかを、私の経験を一例としてお話ししたいと思います。

学芸員への道を進む上で、第一に必要なのは、大学院に進学し、修士号を取得することです。これは単純に採用条件として修士以上の学歴を求める館が多いことと、修士課程修了レベルの専門知識を持っていることが、実際に仕事をする上で必要であることが理由の一つですが、それ以上に院生になると、博物館・資料館で働く学芸員の方々と知り合う機会が飛躍的に多くなることが大きなメリットとなるのです。現場で働く学芸員が多く集まる学会・研究会などに積極的に参加して、学芸員を志望していることをアピールし、修士論文のテーマも地域をフィールドにして、資料館の学芸員や地域の方々と交流しながら研究を行うように努力していると、資料館でバイトとして仕事をする機会が訪れます。

この段階ではバイトですから、責任のある仕事はさせてもらえま

せんが、ここで経験できることはその後益することばかりです。私は八潮市の資料館でバイトをしているときに、資料の基本的な整理方法や展示企画の立て方、資料借用の方法から展示パネルの作製方法まで基礎的な技術をたたき込まれました。また、イベント企画の運営のノウハウや、ボランティアをはじめとする地域の方々とのつきあい方など、現場でしか学べないことを失敗を繰り返しながら学べたことも大きな財産となっています。ここでも、ただ与えられた仕事をこなすのではなく、他館の学芸員の方々と積極的に接触し、情報交換の場を設けるように努力して下さい。仕事に対する意識の高さと、人間関係を良好に保つ能力が認められれば、正式に学芸員として仕事をするチャンスは必ず巡ってきます。

展示を通じて表現したい事がある人間にとって、学芸員はとても魅力的な職業です。採用に当たっては若さが強力な武器になりますので、学芸員を志望される方は、早いうちに覚悟を決めて、現場に出られることをおすすめします。



「東京大空襲の時代～疎開と空襲～」展示風景

博物館実習を終えて

市立市川考古博物館 文学部人文学科歴史学専攻4年 新妻 洋司

私は千葉縣市川市にある「市立市川考古博物館」に実習へ行きました。この館は、主に千葉縣市川市の遺跡から出土した縄文時代から古代までの豊富な遺物を中心に展示している博物館です。この博物館は、「堀ノ内貝塚」と呼ばれている遺跡の中に立地しており、博物館の外に出るとすぐに目の前に史跡公園として整備された「堀ノ内貝塚」があります。

実習は私を含めて5人でおこないました。まず初日に博物館内の清掃、及び展示資料の清掃をしました。重要な展示資料の清掃をするときは、その扱いが難しくとても緊張しました。

次の日からは特別展に関する作業をしました。市川考古博物館では、毎年、実習生にあるテーマに沿った特別展を立案から実際の展示まで、すべてのことを実習生自らがこなう、という実習をやっています。全日程十日間の内、初日の清掃以外は特別展の企画・展示に関するものでした。千葉縣市川市には古代の役所や寺があることから、今年の特別展のテーマは「下総国府について」でした。まず初めに、学芸員の方から下総国府についての説明を受け、国府の調査結果についての資料を貰い、実

際に展示で使う遺物を見せてもらいました。その説明と資料を基に、実習生自らが調べてきたことを加えて、特別展の企画をおこないました。企画の段階では、どのような展示をおこないたいのか、実習生全員で話し合いました。まず、展示の内容を決め、それに沿って展示パネルを作ることにしました。展示パネルは、説明文を書いた文章パネルと写真や図面を用いる写真パネルの二種類を作ることになり、文章パネルを作成する班と写真パネル作成する班の二班に班分けをおこない、私は写真パネルの班になりました。写真や図面は、学芸員の方から貰った資料を組み合わせて作ることにしました。パソコンの中に資料を取り込んでレイアウトをおこない、レイアウトしたものを印刷して実習生全員で、修正点などを話し合いました。一番苦労したのは、文章パネルの説明文と写真パネルの内容を合わせることでした。班を分けて作業していたので、班同士の話し合いが足りないとパネルの内容にずれが生じてしまい、もう一度、一から作り直すことになってしまうので注意が必要でした。パネルが完成したら、今度は実際に遺物を展示ケースの中に入れて、遺物の配置

の仕方を確認しました。当初から考えていた配置では、展示ケースからはみ出してしまい、全体的な色合いも良くないなど、様々な問題点が



出てきたため、遺物の配置を当初の案から大幅に変更することになってしまいました。パネルも一緒に展示室の壁に配置してみると同様の問題がおきてしまい大変でした。最後に実習生と学芸員の方々、全員で特別展の品評会をおこない、修正点を指摘され、最後に修正を加えて特別展が完成しました。特別展は一年間、来年の実習の時まで展示されることになりました。

実際に自分たちで、特別展をやってみて、一つの企画展示をおこなうには考えている以上の労力が必要であることがわかりました。普段、博物館に行ったときに何気なく見ているものが、「どのようにすれば、わかりやすいのか。」「どのようにすれば、見やすくなるのか。」など、学芸員の思いが詰まったものであることが実感できました。このようなことは体験してみなければわからなかったことであり、今回の実習は学芸員の仕事がどのようなものなのかを知るうえで貴重な体験でした。



博物館実習を終えて

新潟市歴史博物館 文学部人文学科哲学人間学専攻3年 石井 晃

実習ガイダンスの時ジャンケンで負けなければ・・・いや、希望実習館の重複の回避が、ジャンケンではなく書類選考等で行われていれば、僕は歴史博物館ではなく、希望通り美術館に行けたかもしれない。せめて僕の熱い情熱を聞いてから判断してほしかった。なぜジャンケンだったのか・・・。

一抹の憤りを拭い去れぬまま始まった、新潟市歴史博物館での実習は、しかしながらそのわだかまりを吹き飛ばすほど実り多いものだった。

実習内容は実に多様、かつ、多忙だった。講義の時間には、新潟市歴史博物館での実情をもとに、貴重なお話をたくさん聞かせていただいた。資料に関する学術的知識はもちろんのこと、資料の展示や保存、経営の知識などは、学芸員として仕事についてからも、むしろ学芸員になった後に、学んでいくことが多いという事実を知った。学芸員の資格課程でそれらを学ぶ時間的な余裕以前に、それらの理論的定説がないという現実、学芸員という仕事の難しさを痛感した。しかし博物館運営が、その館、その土地、その場その場での判断が求められる、イレギュラーなものであるという側面に、奥の深さと魅力を感じた。

講義を通してだけでなく、学芸員の実際の仕事内容を、様々な実習を通して知ることができた。収蔵庫の清掃では、映画『ゴーストバスターズ』の、幽霊を吸い取る機械のような掃除機で、倉庫内にはびこる塵や埃達を隈なく吸い上げた。また、次の企画展に展示する民俗資料を、丸一日かけて洗浄した。蒸し暑い搬入口で、滴り落ちる汗を拭くことも忘れ、ただひたすらに資料を拭いた。資料の

洗浄は、実際にはボランティアの方々の協力を得て行われる作業らしいが、そのような雑多な仕事に費やす時間が、思いのほか多いということに驚いた。「この作業を学芸員が全部やっていたら博物館は破産しますよ。」という学芸員の先生の、人生に対する諦念のような響きが、まだ耳に残っている。

さらに、「体験の広場プログラム」という、参加体験型のイベントの運営を手伝わせていただいたのは非常に有意義だった。第一週目は小さな船に来館者の方々を乗せ、信濃川から見える新潟市を案内するイベント、二週目は、粘土に縄文文様をつけ、炉で焼いて、コースターを作るというイベントだった。どちらも過去に開催例はないということで、試行錯誤しながらの運営だったが、私はそのような学芸員の先生方の、体当たりの行動力に感動した。

経験がないからといって怖気づくのではなく、良いと思ったらまず計画し、実行する。わからないことにこそ挑戦していくその姿が、他のどの職業にもまして魅力的に思えた。学芸員の先生方の振る舞いは、様々な状況に対して、臨機応変さが見られた。柔弱謙下。明日の心配は明日。しかし、いざとなれば乾坤一擲、どんな困難をも打開してみせるその後ろ姿からは、真の心の強さがにじみ出ている。そのような心の強さがなければやっていけない職業が、学芸員なのではないかと思った。

私は、学芸員はスマートな仕事だと思っていた。しかし実際には全くスマートではなく、むしろワ



イルドだった。炎天下の中での肉体労働。終わりの見えない雑務に追いかける日々。学芸員が「雑芸員」と称されるその理由を、私は垣間見た。しかし、この実習を回顧してみた時、一番に思い出されるのは、学芸員の方々の、キラキラした瞳である。何かが誰かのターニングポイントになりうる場、博物館。瞳の輝きは、そのような博物館で、多くの人々に、様々な影響を与えうるモノに囲まれて仕事をする、充実感からくる輝きだろうか。

多忙な毎日の中でも、ユーモアと心の強さを兼ね備えた彼らは、まさに「That's 芸人」と呼ぶにふさわしい。そう思った。新潟市歴史博物館での実習は、そのような学芸員になりたいと、改めて、そして強く思う契機となった。

しかしなぜジャンケンだったのか。まだなお心の片隅に潜む微かな思念。

「学芸員になるには運を味方につけることも必要ようです。」

ふと開いた実習日誌の指導者欄に、そんなコメントが残されていた。

データ編



平成17年度 資格課程履修者数

データ編

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教 職	経 済	経 済 学	49	13	64	12	40	14	29	5	182	44	226
		国 際 経 済	18	—	20	—	15	—	20	—	73	0	73
	法	法 律	53	15	39	14	47	7	41	8	180	44	224
		経 営	22	—	30	—	28	—	21	—	101	0	101
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業 計	39	13	31	8	28	9	40	4	138	34	172
	文	会 計	5	—	5	—	3	—	5	—	18	0	18
		国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	62	—	77	—	40	—	29	—	208	0	208
		心 理	5	—	2	—	4	—	1	—	12	0	12
職	日本語	日 本 語 日 本 文	55	—	66	—	56	—	45	—	222	0	222
		英 語 英 米 文	29	—	39	—	30	—	39	—	137	0	137
	ネットワーク情報	英 語 英 米 文	29	—	39	—	30	—	39	—	137	0	137
		ネットワーク情報	28	—	26	—	31	—	31	—	116	0	116
	大 学	ネットワーク情報	11	—	—	—	—	—	—	—	11	0	11
		院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	科 目 等	履 修 生	—	28	—	—	—	—	—	—	0	28	28
		計	376	69	399	34	322	30	301	17	1,398	150	1,548
	合 計		445		433		352		318		1,548		

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書	経 済	経 済 学	7	7	4	5	8	4	2	2	21	18	39
		国 際 経 済	1	—	1	—	3	—	—	—	5	0	5
	法	法 律	5	5	13	9	8	1	7	5	33	20	53
		経 営	1	—	4	—	9	—	—	—	14	0	14
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業 計	1	2	1	1	8	2	2	2	12	7	19
	文	会 計	—	—	1	—	1	—	1	—	3	0	3
		国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	21	—	22	—	15	—	18	—	76	0	76
		心 理	1	—	4	—	1	—	1	—	7	0	7
書	日本語	日 本 語 日 本 文	35	—	44	—	33	—	21	—	133	0	133
		英 語 英 米 文	4	—	3	—	5	—	5	—	17	0	17
	ネットワーク情報	英 語 英 米 文	4	—	3	—	5	—	5	—	17	0	17
		ネットワーク情報	4	—	15	—	6	—	5	—	30	0	30
	大 学	ネットワーク情報	1	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1
		院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	科 目 等	履 修 生	—	4	—	—	—	—	—	—	0	4	4
		計	81	18	112	15	97	7	62	9	352	49	401
	合 計		99		127		104		71		401		

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書 教 諭	経 済	経 済 学	—	—	4	—	—	1	2	1	6	2	8
		国 際 経 済	1	—	1	—	1	—	3	—	6	0	6
	法	法 律	2	—	2	1	1	3	—	1	5	5	10
		経 営	—	—	1	—	3	—	—	—	4	0	4
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業 計	2	—	—	—	4	—	5	—	11	0	11
	文	会 計	2	—	1	—	—	—	—	—	3	0	3
		国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	2	—	9	—	1	—	2	—	14	0	14
		心 理	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0	1
教 諭	日本語	日 本 語 日 本 文	11	—	14	—	14	—	10	—	49	0	49
		英 語 英 米 文	—	—	1	—	3	—	2	—	6	0	6
	ネットワーク情報	英 語 英 米 文	—	—	1	—	3	—	2	—	6	0	6
		ネットワーク情報	—	—	1	—	1	—	9	—	11	0	11
	大 学	ネットワーク情報	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		院	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	科 目 等	履 修 生	—	5	—	—	—	—	—	—	0	5	5
		計	20	5	34	1	28	4	34	2	116	12	128
	合 計		25		35		32		36		128		

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済 学	1	3	2	1	3	—	1	—	7	4	11
		国 際 経 済	1	—	2	—	3	—	—	—	6	0	6
	法	法 律	2	—	1	—	3	2	1	2	7	4	11
		経 営	5	—	4	—	2	—	1	—	12	0	12
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業 計	2	2	—	—	2	—	—	1	4	3	7
	文	会 計	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	23	—	31	—	33	—	11	—	98	0	98
		心 理	1	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1
員	日本語	日 本 語 日 本 文	4	—	5	—	6	—	5	—	20	0	20
		英 語 英 米 文	2	—	—	—	8	—	1	—	11	0	11
	ネットワーク情報	英 語 英 米 文	2	—	—	—	8	—	1	—	11	0	11
		ネットワーク情報	2	—	1	—	2	—	—	—	5	0	5
	大 学	ネットワーク情報	5	—	—	—	—	—	—	—	5	0	5
		院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	科 目 等	履 修 生	—	4	—	—	—	—	—	—	0	4	4
		計	48	9	46	1	62	2	20	3	176	15	191
	合 計		57		47		64		23		191		

Pass & Pass

平成17年度 教員免許状取得状況一覧

データ編

Pana & Pana

	免許種類	中学一種						高校一種						中学専修						高校専修						合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		教 科			社会			国語			英語			数学			小計			国語			英語				社会			国語			英語			商業			公民			地理歴史																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		申請件数	授与件数	15	15	18	16	情報	商業	国語	書道	英語	数学	小計	申請件数	授与件数	13	13	14	14	10	10	10	10	10		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

平成17年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海道釧路工業高等学校	公 民	経済	国際経済	
	北海道	北海道帯広柏葉高等学校	公民(政治経済)	経済	国際経済	
	北海道	北海道苫小牧東高等学校	公 民	商	商業	
	北海道	北海道池田高等学校	商 業	商	商業	
	北海道	北海道帯広柏葉高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	北海道	双葉高等学校	情 報	経営	経営	
	北海道	帯広大谷高等学校	公 民	商	商業	
	青森県	青森県立八戸高等学校	公 民	文	人文	哲学生人間学
	青森県	八戸市立小中野中学校	社 会	経済	経済	
	岩手県	岩手県立前沢高等学校	情 報	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商 業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	岩手県	水沢市立南中学校	社 会	文	人文	社会学
	宮城県	宮城県石巻高等学校	英 語	文	英語英米文	
	宮城県	古川学園高等学校	商 業	商	会計	
	秋田県	秋田県立能代高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	秋田県	秋田県立能代高等学校	英 語	文	英語英米文	
	秋田県	秋田県立大館鳳鳴高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	山形県	山形県立酒田東高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	福島県	福島県立川俣高等学校	商 業	商	商業	
	福島県	福島県立若松商業高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	福島県	福島市立岳陽中学校	社 会	経済	国際経済	
	福島県	白河市立白河中央中学校	社 会	商	商業	
	福島県	郡山市立郡山第四中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	福島県	郡山市立片平中学校	英 語	文	英語英米文	
関東	茨城県	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校	情 報	経営	経営	
	茨城県	茨城県立鉾田第二高等学校	商 業	商	商業	
	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	商 業	商	会計	
	茨城県	茨城県立古河第三高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	茨城県	茨城県立佐和高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	茨城県	土浦日本大学高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	茨城県	利根町立新館中学校	社 会	経済	経済	
	茨城県	那珂町立第三中学校	社 会	商	商業	
	茨城県	麻生町立麻生第一中学校	社 会	文	人文	社会学
	茨城県	日立市立多賀中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	茨城県	三和町立三和北中学校	英 語	文	英語英米文	
	栃木県	栃木県立佐野女子高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	栃木県	栃木県立宇都宮中央女子高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	栃木県	佐野日本大学高等学校	地理歴史	商	商業	
	群馬県	群馬県立中央高等学校	情 報	経営	経営	
	群馬県	太田市立商業高等学校	商 業	商	商業	
	群馬県	太田市立商業高等学校	商 業	商	会計	
	群馬県	群馬県立太田東高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	群馬県	松井田町立東中学校	社 会	経済	経済	
	群馬県	北橋村立北橋中学校	社 会	経済	国際経済	
	群馬県	伊勢崎市立第一中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	群馬県	前橋市立桂葉中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	群馬県	前橋市立第五中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	群馬県	太田市立旭中学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
東	埼玉県	埼玉県立川口北高等学校	公 民	経済	経済	
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	商 業	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立越ヶ谷高等学校	地理歴史	商	商業	
	埼玉県	埼玉県立幸手商業高等学校	商 業	商	会計	
	埼玉県	埼玉県立熊谷西高等学校	地理歴史	文	人文	哲学生人間学
	埼玉県	埼玉県立松山高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	埼玉県	埼玉県立所沢北高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	埼玉県	埼玉県立福岡高等学校	英 語	文	英語英米文	
	埼玉県	さいたま市立浦和南高等学校	地理歴史	経済	経済	
	埼玉県	さいたま市立浦和南高等学校	英 語	文	英語英米文	
	埼玉県	本庄東高等学校	情 報	経営	経営	
	埼玉県	西武台高等学校	地理歴史	商	商業	
	埼玉県	花咲徳栄高等学校	地理歴史・商業	商	商業	
	埼玉県	佐藤栄学園埼玉栄高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	埼玉県	秀明英光高等学校	英 語	文	英語英米文	
	埼玉県	熊谷市立荒川中学校	社 会	経済	経済	
	埼玉県	羽生市立羽生西中学校	社 会	商	商業	
	埼玉県	川口市立安行東中学校	社 会	文	人文	哲学生人間学
	埼玉県	蓮田市立蓮田南中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	埼玉県	上福岡市立花の木中学校	英 語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉県立千葉女子高等学校	地理歴史	商	商業	
	千葉県	千葉県立成東高等学校	英 語	文	英語英米文	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	社会・地理・公民	経済	国際経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	情 報	経営	経営	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英 語	文	英語英米文	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英 語	文	英語英米文	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	情 報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	船橋市立湊中学校	社 会	経済	国際経済	
	千葉県	茂原市立茂原中学校	社 会	文	人文	哲学生人間学
	千葉県	松戸市立金ヶ作中学校	社 会	文	人文	社会学
	千葉県	柏市立逆井中学校	社 会	文	心理	
	千葉県	野田市立岩名中学校	英 語	文	英語英米文	
	千葉県	袖ヶ浦市立平川中学校	英 語	文	英語英米文	
東	東京都	東京都立小川高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	東京都立桐ヶ丘高等学校	商 業	経営	経営	
	東京都	東京都立昭和高高等学校	公 民	商	商業	
	東京都	東京都立日野台高等学校	地理歴史	文	人文	哲学生人間学
	東京都	東京都立山崎高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	東京都立武蔵丘高等学校	英 語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立三鷹高等学校	英 語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立昭和高高等学校	英 語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	情 報	経営	経営	
	東京都	専修大学附属高等学校	情 報	経営	経営	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	商	商業	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	商業	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	商業	
	東京都	専修大学附属高等学校	情 報	商	会計	
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	東京都	専修大学附属高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	東京都	専修大学附属高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	明治大学付属中野八王子中学高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	東京都	武蔵野女子学院高等学校	公 民	文	人文	社会学
	東京都	和洋九段女子高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	墨田区立両国中学校	社 会	経済	経済	

平成17年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	東京大学教育学部附属中等教育学校	社会・公民	経済	経済	
	東京都	台東区立忍岡中学校	社会	経済	国際経済	
	東京都	大田区立馬込東中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	台東区立御徒町台東中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	品川区立平塚中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	三輪田学園中学校	社会	文	人文	歴史学
	東京都	駒込中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立霧ヶ丘高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立上溝南高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立大和南高等学校	地理歴史	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公民(政治経済)	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立川崎高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立弥栄高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立平塚江南高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立川崎高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜市立金沢高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立港南台高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立六ツ川高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	富士見丘中・高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	横浜高等学校	商業	経営	経営	
	神奈川県	藤沢翔陵高等学校	商業	商	商業	
	神奈川県	相洋高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	横須賀学院高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	浅野中・高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	高木学園女子高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	厚木市立相川中学校	社会	商	商業	
	神奈川県	厚木市立玉川中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	綾瀬市立綾瀬中学校	社会	商	商業	
	神奈川県	川崎市立南加瀬中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	相模原市立清新中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立中央中学校	地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立若草中学校	社会	商	商業	
	神奈川県	座間市立座間中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	茅ヶ崎市立中島中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	茅ヶ崎市立北陽中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	平塚市立金目中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	藤沢市立藤ヶ岡中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	藤沢市立第一中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立六角橋中学校	社会	商	商業	
	神奈川県	横浜市立城郷中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市立万騎が原中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	山梨県	山梨県立日川高等学校	公民	文	人文	哲学生人間学
	山梨県	山梨県立富士河口湖高等学校	英語	文	英語英米文	
	山梨県	南部町立南部中学校	地理歴史	経済	経済	
	山梨県	山梨市立山梨南中学校	社会	経済	経済	
	山梨県	西桂町立西桂中学校	英語	文	英語英米文	
北陸	富山県	富山県立富山南高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	富山県	富山市立呉羽中学校	社会	経済	経済	
	富山県	大沢野町立大沢野中学校	英語	文	英語英米文	
	石川県	石川県立金沢桜丘高等学校	地理歴史	商	商業	
	石川県	星稜高等学校	公民	商	商業	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
信越	新潟県	新潟県立十日町高等学校	公民	商	商業	
	新潟県	新潟県立新津高等学校	情報	経営	経営	
	新潟県	新潟県立村上高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	新潟県	新潟県立村上高等学校	英語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟県立三条東高等学校	英語	文学	英語英米文学	
	新潟県	東京学館新潟高等学校	地理歴史	経済	経済	
	長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校	地理歴史	経済	経済	
	長野県	長野県木曽高等学校	地理歴史	経済	経済	
	長野県	長野県長野商業高等学校	商業	経営	経営	
	長野県	長野県松代高等学校	商業	商	商業	
	長野県	佐久長聖高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	長野県	佐久市立浅間中学校	社会	経済	経済	
	長野県	松川村立松川中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	岐阜県	岐阜県立岐阜各務野高等学校	商業	商	商業	
	岐阜県	中京高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
東海	岐阜県	高山市立中山中学校	社会	商	商業	
	静岡県	静岡県立浜松南高等学校	公民	経済	国際経済	
	静岡県	静岡県立掛川東高等学校	公民	経済	国際経済	
	静岡県	静岡県立藤枝東高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	静岡県	静岡県立榛原高等学校	英語	文	英語英米文	
	静岡県	静岡県立静岡東高等学校	英語	文	英語英米文	
	静岡県	静岡県立榛原高等学校	情報	経営学	経営学	
	静岡県	日本大学三島高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	静岡県	熱海市立熱海中学校	英語	文	英語英米文	
	静岡県	静岡市立南中学校	社会	経済	国際経済	
	静岡県	静岡市立城山中学校	社会	商	商業	
	静岡県	静岡市立清水第七中学校	社会	文	人文	歴史学
	静岡県	静岡市立中島中学校	英語	文	英語英米文	
	静岡県	浜松市立東部中学校	社会	文	人文	歴史学
	静岡県	浜松市立可美中学校	英語	文	英語英米文	
近畿	愛知県	名古屋市立向陽高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	愛知県	東邦高等学校	商業	経営	経営	
	愛知県	東栄町立東栄中学校	社会	経済	経済	
	三重県	菰野町立菰野中学校	社会	商	商業	
	滋賀県	滋賀県立守山高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
中国	岡山県	中央町立中央中学校	英語	文	英語英米文	
	広島県	広陵高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	広島県	広島工業大学附属広島高等学校	英語	文	英語英米文	
	広島県	鈴峯女子高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	広島県	広島市立瀬野川中学校	英語	文	英語英米文	
四国	徳島県	徳島県立池田高等学校	地理歴史	商	商業	
	香川県	大野原町立大野原中学校	社会	文	人文	環境地理学
	香川県	坂出市立白峰中学校	社会	文学	歴史学	
	高知県	高知県立高知追手前高等学校	公民	文	人文	哲学生人間学
	高知県	土佐清水市立三崎中学校	英語	文	英語英米文	
九州・沖縄	福岡県	福岡県立筑紫高等学校	公民	経済	経済	
	長崎県	佐世保市立山澄中学校	社会	文	人文	社会学
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	公民	経済	経済
	熊本県	専修大学玉名高等学校	情報	経営	経営	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	大分県	大分県立大分豊府高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	大分県	大分県立別府鶴見丘高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	沖縄県	沖縄県立首里高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	沖縄県	沖縄尚学高等学校	英語	文	英語英米文	
	沖縄県	沖縄尚学高等学校	英語	文	英語英米文	

平成17年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東北	岩手県 専修大学北上高等学校	公民	法	法律
	茨城県	茨城県ひたちなか市大島中学校	社会	法	法律
	栃木県	栃木県佐野市立吾妻中学校	社会	法	法律
	群馬県	群馬県立富岡高等学校	公民	法	法律
	群馬県	新島学園中学・高等学校	現代社会	法	法律
	埼玉県	さいたま市立浦和南高等学校	公民	法	法律
	千葉県	志学館中等部	社会	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	日本史	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県千潟町立千潟中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	日本史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	日本史(地歴)	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	日本史(地歴)	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都小平市立小平第四中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都杉並区立大宮中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都杉並区立高井戸中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都杉並区立和田中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都八王子市立第七中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立竹早高等学校	公民	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	神奈川県茅ヶ崎市立円蔵中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県横浜市立錦台中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	地理	法	法律
	神奈川県	相洋高等学校	公民	法	法律
	山梨県	山梨県立日川高等学校	地歴・公民	法	法律
	山梨県	山梨県立都留高等学校	地歴	法	法律
北陸	石川県	石川県羽咋市羽咋中学校	社会	法	法律
信越	新潟県	国立新潟大学教育人間科学部附属新潟中学校	社会	法	法律
	新潟県	新潟県立柏崎常盤高等学校	地歴・公民	法	法律
	新潟県	新潟県立六日町高等学校	公民	法	法律
	新潟県	新潟県立六日町高等学校	公民	法	法律
	長野県	長野県小布施町立小布施中学校	社会	法	法律
東海	静岡県	静岡県静岡市立清水商業高等学校	現代社会	法	法律
	静岡県	静岡県沼津市立第三中学校	社会	法	法律
中国	鳥取県	鳥取県私立米子北高等学校	地理歴史	法	法律
	島根県	島根県立平田高等学校	公民	法	法律
	山口県	山口県立宇部商業高等学校	地理歴史	法	法律
四国	愛媛県	愛媛県立今治北高等学校	地理歴史	法	法律
九州	佐賀県	佐賀学園高等学校	地理歴史	法	法律
	長崎県	長崎県立長崎南高等学校	公民	法	法律

平成17年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	北海道	北海道砂川高等学校	公民	法	法律
	秋田県	男鹿市立男鹿東中学校	社会	履修生	
	山形県	東根市立第一中学校	社会	法	法律
	福島県	福島県立大沼高等学校	公民	法	法律
	群馬県	太田市立木崎中学校	社会	履修生	
	群馬県	北橘村立北橘中学校	社会	履修生	
	埼玉県	さいたま市立大宮北高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	東野高等学校	公民	経済	経済
	埼玉県	両神村立両神中学校	国語	履修生	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	履修生	
	東京都	東京都立江戸川高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立石神井高等学校	公民	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京都立第一商業高等学校	商業	経済	経済
	東京都	東京都立向島工業高等学校	公民	法	法律
	東京都	三鷹市立第五中学校	社会	履修生	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	公民	経済	経済
	神奈川県	相模原市立大野台中学校	社会	履修生	
信越	長野県	長野県東部高等学校	地理歴史	履修生	
中国	岡山県	岡山県立玉島商業高等学校	地理歴史	経済	経済
	広島県	広島市立観音中学校	国語	履修生	
四国	愛媛県	宇和島市立城南中学校	社会	商	商業
九州	福岡県	宇美町立宇美東中学校	国語	履修生	
	大分県	大分県立津久見高等学校	商業	商	商業

平成17年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	山形県	南陽市立図書館	文	人文	歴史学
	福島県	福島県立図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
関東	栃木県	真岡市立図書館	文	英語英米学科	
	埼玉県	埼玉県立浦和図書館	法	法律	
	東京都	北区立中央図書館	文	人文	社会学
	東京都	杉並区立中央図書館	法	法律	
	東京都	八王子市中央図書館	経済	経済	
	東京都	福生市立中央図書館	文	日語日本文学科	日本語学

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	藤沢市総合市民図書館	文	人文	社会学
	神奈川県	横浜市中央図書館	文	日語日本文学科	日本文学文化
	神奈川県	専修大学図書館	文	日語日本文学科	日本文学文化
	神奈川県	専修大学図書館	文	英語英米学科	
信越	新潟県	新発田市立図書館	文	日語日本文学科	日本文学文化
	新潟県	新発田市立図書館	履修生		
沖縄	沖縄県	北谷町立図書館	文	英語英米学科	

平成17年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	岩手県	山田町立鯨と海の科学館	文	人文	歴史学
	山形県	致道博物館	文	人文	哲学生人間学
	山形県	山寺芭蕉記念館	文	英語英米文	
	福島県	いわき市立美術館	文	英語英米文	
関東	茨城県	茨城県近代美術館つくば分館	文	英語英米文	
	茨城県	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	文	人文	歴史学
	茨城県	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	履修生		
	茨城県	水戸市立博物館	文	人文	歴史学
	栃木県	栃木県立博物館	文	人文	歴史学
	群馬県	笠懸町岩宿文化資料館	文	英語英米文	
	埼玉県	原爆の図丸木美術館	文	人文	歴史学
	埼玉県	戸田市立郷土博物館	文	人文	歴史学
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	英語英米文	
	千葉県	千葉県立関宿城博物館	法	法律	
	千葉県	流山市立博物館	文学	日語日本文学	
	千葉県	船橋市郷土資料館	文	英語英米文	
	千葉県	松戸市立博物館	文	人文	歴史学
	東京都	足立区立郷土博物館	履修生		
	東京都	大田区立郷土博物館	文	日語日本文	日本文学文化
	東京都	高麗博物館	文学	歴史学	
	東京都	すどう美術館	法	法律	
	東京都	すどう美術館	文	人文	環境地理学
	東京都	世田谷区立郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	東京都井の頭自然文化園	文	人文	哲学生人間学
	東京都	東京都恩賜上野動物園	経済	国際経済	
	東京都	八王子市郷土資料館	文学	歴史学	
	東京都	東村山ふるさと歴史館	文	人文	歴史学
	東京都	東大和市立郷土博物館	文	人文	環境地理学
	東京都	府中市郷土の森博物館	文	人文	歴史学
	東京都	府中市郷土の森博物館	文	人文	環境地理学
	東京都	町田市立自由民権資料館	経済	国際経済	
	東京都	町田市立博物館	文	人文	歴史学

	所在地	実 習 館 名	実習学生			
			学部	学科	専攻	
関	東京都	明治大学博物館	経済	経済		
	東京都	明治大学博物館	経営	経営		
	東京都	明治大学博物館	文	人文	歴史学	
	東京都	横山大観記念館	文	人文	歴史学	
	神奈川県	大磯町郷土資料館	文	人文	歴史学	
	神奈川県	カスヤの森現代美術館	文	日本語日本文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立金沢文庫	文	人文	歴史学	
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	経済	経済		
	神奈川県	川崎市青少年科学館	商	商業		
東	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	人文	環境地理学	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	人文	歴史学	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	日本語日本文	日本文学文化	
	神奈川県	シルク博物館	文	人文	歴史学	
	神奈川県	シルク博物館	文	英語英米文		
	神奈川県	平塚市博物館	文	人文	歴史学	
	神奈川県	横浜開港資料館	文	人文	歴史学	
	北陸	石川県	金沢文化振興財団	文	日本語日本文	日本文学文化
	信	新潟県	佐渡博物館	経済	経済	
新潟県		新潟県立近代美術館	文	人文	哲学生人間学	
長野県		長野市立博物館	文	人文	歴史学	
長野県		長野県立歴史館	文	人文	歴史学	
長野県		松本市立博物館（日本民俗資料館）	文	人文	歴史学	
東海	静岡県	浜松科学館	文	人文	歴史学	
	静岡県	浜松市博物館	文	人文	歴史学	
	静岡県	三島市郷土資料館	経営	経営		
近畿	和歌山県	和歌山市立博物館	文	日本語日本文	日本文学文化	
中国	島根県	玉湯町立出雲玉作資料館	文	人文	歴史学	
	島根県	浜田市世界子ども美術館	文	日本語日本文	日本文学文化	
四国	香川県	高松市美術館	文	人文	歴史学	
九州	福岡県	北九州市立美術館	履修生			
	長崎県	長崎孔子廟中国歴代博物館	文	日本語日本文	日本文学文化	

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 14 年 度	平14 経済・経済	川北町立川北小学校	非常勤	
	平14 経済・経済	神奈川県立高津養護学校	非常勤	
	平14 法・法律	一宮町立一宮中学校	常勤	社会
	平12 商・商業	東京実業高等学校	非常勤	商業
	平14 商・商業	山梨県立高等学校	期間採用	商業
	平14 文・国文	田原町立田原中学校	常勤	国語
	平9 文・英米文	東海大学菅生高等学校	専任	英語
	平10 文・英米文	品川区立三木小学校	専任	
	平10 文・英米文	東京都内養護学校	専任	英語
	平11 文・英米文	柏木学園高等学校	専任	英語
	平11 文・英米文	八王子市立四谷中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	福島高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	宮城県迫桜高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	青梅市立第二小学校	専任	
	平13 文・英米文	騎西町立騎西中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	松任市立松任中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	大田区立馬込中学校	専任	英語
	平14 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	報徳学園高等学校	非常勤	英語
平成 15 年 度	平14 院文・修士	川崎市立西中原中学校	非常勤	
	平14 院文・修士	岩手県立盛岡商業高等学校	専任	地歴・公民
	平14 院文・修士	杉並学院高等学校	非常勤	英語
	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	指導助手	
	平15 経済・経済	新利根町立太田小学校	期限付	
	平15 経済・経済	福岡第一高等学校	常勤	地理歴史
	平15 経済・経済	館山市立船形小学校	非常勤	国語・社会・図工
	平15 法・法律	野木町立野木第二中学校	常勤	社会
	平15 法・法律	川口町立川口中学校	非常勤	数学
	平15 法・法律	湯之谷村立湯之谷中学校	非常勤	数学
	平15 経営・経営	静岡県立田方農業高等学校	非常勤	商業
	平13 商・商業	船橋市立船橋高等学校	非常勤	商業
	平15 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非常勤	商業
	平15 商・商業	専修大学北上高等学校	常勤	商業
	平15 商・商業	東京都立荒川商業高等学校（定時制）	非常勤	商業
	平12 文・国文	群馬県内公立小学校		
	平12 文・国文	福島県立福島南高等学校	常勤	国語
	平15 文・国文	倉敷市立児島中学校	非常勤	国語
	平15 文・国文	鶴岡東高等学校	常勤	国語
平成 16 年 度	平4 文・英米文	大田区立田園調布中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	作新学院高等学校	専任	英語
	平13 文・英米文	新鶴村立新鶴中学校	非常勤	英語
	平13 文・英米文	川崎市立御幸中学校	常勤	英語
	平13 文・英米文	三郷市立彦成中学校	専任	英語
	平15 文・英米文	新潟県立佐渡高等学校	期限付	英語
	平15 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平15 院経営・修士	埼玉県立所沢西高等学校	専任	情報
	平14 院文・修士	獨協埼玉中・高等学校	専任	地理歴史
	平15 院文・修士	神奈川県立生田東高等学校	非常勤	情報・総合学習
	平15 院文・修士	朋優高等学校	専任	英語
	平16 経済・経済	郡山市立小原田中学校	非常勤	社会
	平16 経営・経営	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非常勤	情報
	平16 商・商業	学校法人川島学園（鹿児島実業高等学校）	期限付	商業
	平16 商・会計	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非常勤	商業
	平16 商・会計	学校法人佐藤栄学園	専任	商業
	平16 文・英米文	常総市立石下西中学校	非常勤	英語
	平16 文・英米文	株式会社社会教育事業団（武蔵国際総合学園）	期限付	英語
	平16 文・英米文	黒磯市教育委員会	常勤	英語
	平16 文・人文	学校法人福田学院（東和大学附属昌平高等学校）	非常勤	地理歴史
	平16 文・人文	北区内小学校	非常勤	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成16年度	平16 院経営・修士	宮崎県立富島高等学校	専 任	商 業
	平16 院経営・修士	学校法人沼津精華学園（沼津中央高等学校）	専 任	商業・情報
	平16 院文・修士	新潟県立新潟西高等学校	専 任	英 語
	平16 院文・修士	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非 常 勤	地理歴史
	平15 法・法律	学校法人湘南白百合学園（湘南白百合学園中学高等学校）	非 常 勤	情 報
	平12 文・人文	松戸市立六実第二小学校	専 任	全 科
	平15 法・法律	松戸市立牧野原小学校	専 任	全 科
	平15 文・英米文	あきる野市内小学校	専 任	全 科
	平 9 商・商業	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非 常 勤	商 業
	平15 文・英米文	川崎市立平間中学校	非 常 勤	英 語
平成17年度	平13 経済・経済	川崎市立稲田小学校	専 任	小 学 校
	平15 経済・経済	専修大学附属高等学校	専 任	英 語
	平17 経済・国際経済	銚子市立銚子第五中学校	常 勤	社会・理科
	平14 法・法律	八街市内中学校	専 任	社 会
	平16 法・法律	千葉県印旛村立いには野小学校	専 任	小 学 校
	平17 法・法律	船橋市立七林小学校	常 勤	全 科
	平17 法・法律	学校法人駿河学院 藤枝学院実務高等専修学校	専 任	
	平16 経営・経営	神奈川県立生田東高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 学校法人成城学園（成城学園高等学校）	非 常 勤	情 報
	平16 経営・経営	専修大学附属高等学校 学校法人駒場学園（駒場学園高等学校）	非 常 勤	情 報
	平16 経営・経営	学校法人立教大学（立教新座中学・高等学校） 学校法人慶應義塾（慶應義塾高等学校） 東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平16 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 経営・経営	岩手県立福岡高等学校	常 勤	情報・商業
	平17 経営・経営	学校法人佐藤栄学園（栄東中学・高等学校）	専 任	情 報
	平17 経営・経営	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立秩父高等学校 埼玉県立小鹿野高等学校	非 常 勤	情 報
	平15 商・商業	日本放送協会学園高等学校	常 勤	商 業
	平12 文・人文	東京都内小学校	専 任	全 科
	平13 文・英米文	加賀市立片山津中学校	専 任	英 語
	平15 文・英米文	川崎市立有馬中学校	専 任	英 語
	平16 文・国文	学校法人福田学園（東和大学付属昌平高等学校）	非 常 勤	国 語
	平16 文・国文	鴨川市立江見中学校	常 勤	国 語
	平16 文・英米文	結城市立結城中学校	専 任	英 語
	平16 文・人文	横浜市立青葉台中学校	臨 任	社 会
	平17 文・人文	学校法人市邨学園（名古屋経済大学高蔵高等学校）	非 常 勤	地理歴史
	平17 文・人文	厚木市立林中学校	臨時的任用職員	社 会
	平17 文・日本語・日本文	学校法人佐藤栄学園（埼玉栄高等学校）	常 勤	国 語
	平17 文・英語・英米文	学校法人柏専学院（新潟産業大学附属高等学校）	非 常 勤	英 語
	平17 文・英語・英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常 勤	英 語
	平17 文・英語・英米文	東京都立足立東高等学校	専 任	英 語
	平17 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非 常 勤	情 報
	平17 商・商業	学校法人松韻学園（松栄高等学校）	常 勤	公民・商業
	平17 院商・修士	東京都立新宿山吹高等学校	専 任	商業・情報
	平16 院文・修士	拓殖大学第一高等学校	非 常 勤	地理歴史
	平16 院文・修士	新潟県立巻高等学校	専 任	英 語
	平16 履修生	東京都立国立高等学校 東京都立美原高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 日本放送協会学園高等学校	非 常 勤	情 報

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平14 経・経済	千葉明德短期大学図書館
平 8 法・法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
平 9 法・法律	日外アソシエーツ（株）
平11 商・商業	有隣堂
平 6 文・国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 8 文・国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 文・国文	桂村立図書館（茨城県）
平 9 文・国文	八街市立図書館（千葉県）
平10 文・国文	鷺湖書房
平10 文・国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平12 文・国文	青山学院女子短期大学図書館
平13 文・国文	実践女子大学図書館
平13 文・国文	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
昭和46 文・人文	東京福祉商経専門学校図書室
昭和57 文・人文	市川市東国分中学校
平 8 文・人文	東京大学法学部図書館
平 9 文・人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文・人文	女子栄養大学図書館
平 9 文・人文	東京医科大学図書館
平11 文・人文	葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）
平12 文・人文	専修大学図書館
平14 文・国文	専修大学図書館
平12 文・人文	藤沢市立中央図書館（神奈川県）
平14 商・商業	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
平14 法・法律	（株）雄松堂書店
平15 院文・修士	国土館大学 鶴川図書館
平17 文・日本語日本文	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
平16 院文・修士	神奈川県立川崎高等学校

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県一迫町役場	山武郡埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター	国立西洋美術館
下妻市ふるさと博物館	調布市郷土博物館
玉造町資料館	東京国際美術館
栃木県埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター
栃木県立博物館	明治大学考古学博物館
群馬県埋蔵文化財センター	福井県立博物館
富岡市立美術博物館福沢一郎記念美術館	高山市歴史民俗資料館
入間市郷土博物館	MOA美術館
鳥羽水族館	行田市郷土博物館
高松市歴史資料館	埼玉県埋蔵文化財センター
浦和市くらしの博物館民家園	通信総合博物館
矢島町立郷土資料館	野田市郷土博物館
乃村工芸社	町田市フォトサロン
（東京）電力館	日本民藝館
すみだ郷土文化資料館	山梨県立考古博物館

平成17年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 届 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等体験オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3						
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス	4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
	下 旬	介護等体験事前講習会	3・4						
6 月	上 旬	教育実習開始 （5月下旬～11月中旬）	4					博物館見学実習	3・4
	中 旬	教育実習登録ガイダンス	3			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべ て取得した者対象）	4		
		教育実習内諾書の提出	3						
		教員免許状一括申請ガイダンス	4						
下 旬	介護等の体験開始 （6月下旬～2月初旬）	3・4							
7 月	下 旬	前 期 試 験 （ 全 学 年 ）							
		夏 期 休 暇 （ 7 月 下 旬 ～ 9 月 上 旬 ）							
8 月	上 旬	前 期 追 試 験 （ 全 学 年 ）							
		専修大学英語科教育研究会	1～4	図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
		夏 期 休 暇							
9 月	中 旬	教員免許状授与願ガイダンス	4						
10月		教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス（第1回）	2・3
11月	上 旬					司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次に司書教諭の単位を履修している者対象）	4	博物館実習登録ガイダンス（第2回）	2・3
	下 旬	教育学会	1～4						
12月	中 旬							実習希望博物館との内諾交渉	2・3
				司書課程就職（進路）相談会	1～4			学芸員資格取得証明書申請手続き	4
1 月	上 旬 下 旬	後 期 試 験 ・ 学 年 末 試 験 （ 全 学 年 ）							
2 月	下 旬	後 期 ・ 学 年 末 追 試 験 （ 全 学 年 ）							
3 月	上 旬	教職特別講座	1～4					博物館実習承諾書の提出	2・3
	中 旬	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成17年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 平成17年10月1日（土）
- 時間 13：30～17：00 （17：30～19：00 反省・情報交換会）
- 場所 生田校舎 7号館 （ル・クラブ・ドウ専修（グリーントップ3階） 反省・情報交換会）
- 参加者数 106名
- 内 容

〔全体講師〕

（教職員の望ましいあり方および現在の教育課題について）

講 師	齋 藤 博 志 先生（本学文学部卒業） （東京都八王子市立七国中学校校長）
-----	--

〔教科講師〕

講 師 （卒業年・学部・学科）	勤 務 先	科 目
桑原 正樹 先生 （平成12年3月文学研究科国文学専攻修士課程修了）	東京都立大森高等学校	国 語
横瀬 喬哉 先生 （平成17年3月文学部英語英米文学科卒業）	東京都立足立東高等学校	英 語
木村 瑠美子 先生 （平成12年3月文学部人文学科卒業）	神奈川県横浜市立浜中学校	社 会
渡部 健 先生 （平成14年3月法学部法律学科卒業）	東京都立城南養護学校	地歴・公民
山口 大輔 先生 （平成17年3月商学部商業学科卒業）	学校法人松韻学園（福島県） 松栄高等学校	商 業
野口 理恵 先生 （平成17年3月経営学部経営学科卒業）	学校法人佐藤栄学園（埼玉県） 栄東中学・高等学校	情 報
天野 理 先生 （平成13年3月法学部法律学科卒業）	東京都八王子市立上柚木小学校	小 学 校
石原 友美 先生 （平成16年3月法学部法律学科卒業）	千葉県印旛村立いには野小学校	

〈タイムテーブル〉

時 間	内 容	場 所
13：30～13：40	挨拶 教職課程協議会委員長 経済学部 教授 矢吹 芳洋	702教室
13：50～14：20	現職教員からの提言① 国語 社会 商業 小学校	723教室 722教室 725教室 724教室
14：30～15：00	現職教員からの提言② 英語 地歴・公民 情報 小学校	723教室 722教室 725教室 724教室
15：10～15：50	現職教員とのディスカッション 国語・英語 社会・地歴・公民 商業・情報 小学校	723教室 722教室 725教室 724教室
15：50～16：00	休 憩（702教室に移動）	
16：00～17：00	採用者側からの助言 （講師紹介：商学部 教授 蔭山 雅博）	702教室
17：30～19：00	終了後、反省・情報交換会	ル・クラブ・ドウ専修 （グリーントップ3階）

平成17年度 教職特別講座開催結果

- 開催日 平成18年3月23日（木）・24日
- 時間 ①② 9:00～12:10 ③④ 13:00～16:10 1コマ90分 2コマ
- 場所 生田校舎 4号館 2階 423教室（424教室）
- 参加者数 延べ70名
- 内容

開催日	内 容	講 師	参加者数
3月23日（木）	一般教養（理科）①②	専修大学附属高等学校教諭 田中 一晴	13名
3月23日（木）	一般教養（数学）③④	専修大学附属高等学校教諭 月橋 典寛	18名
3月24日（金）	時事用語・教育法規対策①②	経営学部教授 嶺井 正也	17名
3月24日（金）	小論文・面接対策③④	横浜市中村地区センター館長 岩田 公夫（元横浜市中村小学校校長） 墨田区立壱川中学校副校長 伊藤 雅夫 商学部助教授 小峰 直史	22名

平成17年度 第14回専修大学英語科教育研究会開催結果

- 開催日 平成17年8月27日（土）
- 時間 13:00～16:40（受付12:30～）
- 場所 生田校舎 9号館 7階 976教室
- 参加者数 22名
- 内容

時 間	内 容
12:30～	受付
13:00	開会 司会：文学部 教授 田邊 祐司
13:10～14:10	「『和訳先渡し授業』を導入して一高校英語Ⅱの授業における実践報告」 専修大学附属高等学校 教諭 布施 良太 専修大学附属高等学校 教諭 滝沢 武
14:20～15:00	「私立高等学校の将来展望」 八王子高等学校 教諭 大溝 晃彦
	コーヒー・ブレイク
15:00～16:30	「英語学力の診（み）方」 講演：「テストの基礎知識」 Q&Aセッション：「どんとこい！テストティング」 専修大学 助教授 片桐 一彦
16:30～16:40	総会・終了

平成17年度 司書課程就職（進路）相談会開催結果

- 開催日 平成17年12月16日（金）
- 時間 16:20～18:00
- 場所 生田校舎 4号館 2階 424教室
- ゲスト 須賀 正孝（紀伊國屋書店）
- 参加者数 約20名
- 内容 図書館業務受託企業の立場にあるゲストを交え、図書館関連の就職について懇談。

平成17年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育論
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	教 授	渡部 光	比較教育学
法 学 部	講 師	鈴木 秀光	法律学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
経営学部	助 教授	中村 太一	英語科教育論Ⅱ
商 学 部	教 授	伊吹 克己	倫理学
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育論
商 学 部	助 教授	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	新井 勝紘	日本史
文 学 部	教 授	大庭 健	倫理学
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	上村 妙子	教育実習Ⅱ(英語)
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文 学 部	教 授	貫 成人	哲学
文 学 部	教 授	米田 嚴	地理学
文 学 部	教 授	松尾 容孝	地誌学
文 学 部	助 教授	片桐 一彦	英語科教育論
文 学 部	助 教授	高橋 龍夫	国語科教育論
ネットワーク 情報学部	教 授	青木 憲二	数学科教育論
ネットワーク 情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク 情報学部	助 教授	香山 瑞恵	情報科教育論
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	発達・学習心理学
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	佐藤 由美	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	菅澤 康雄	社会科教育論
経済学部	兼任講師	角田真紀子	発達・学習心理学
法 学 部	兼任講師	関根 照彦	法律学
法 学 部	兼任講師	樋口 州男	日本史
法 学 部	兼任講師	広井多鶴子	教育原論
法 学 部	兼任講師	油井原 均	教育課程論
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育方法論
経営学部	兼任講師	田口 康明	比較教育学
経営学部	兼任講師	東 宏行	教育職員論
商 学 部	兼任講師	飯森 富夫	日本史
商 学 部	兼任講師	市川 功	倫理学
商 学 部	兼任講師	井出 功孝	特別活動論
商 学 部	兼任講師	岩田 公夫	教育職員論
商 学 部	兼任講師	神山 安弘	地理歴史科教育論
商 学 部	兼任講師	小瑤 史朗	社会科教育論Ⅱ
商 学 部	兼任講師	藤村富士男	教育職員論
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	地理学
商 学 部	兼任講師	松田美登子	発達・学習心理学

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育論Ⅰ
文 学 部	兼任講師	岡 秀一	地誌学
文 学 部	兼任講師	長阪 朱美	英語科教育論Ⅰ
文 学 部	兼任講師	小林 基男	外国史
文 学 部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	西田 暢子	外国史
文 学 部	兼任講師	挽地 茂男	宗教学
文 学 部	兼任講師	山添 謙	地理学
ネットワーク 情報学部	兼任講師	小原 豊	教育方法論

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教授	荻原 幸子	図書館概論
経済学部	兼任講師	青木みのり	読書心理
経済学部	兼任講師	高成田 享	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	丸山 光枝	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	小黒 浩司	図書及び図書館史
文 学 部	兼任講師	歌田 明弘	マスコミュニケーション
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文 学 部	兼任講師	千葉 治	コミュニケーション論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス概説
文 学 部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	森園 繁	図書館資料論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

編集後記

毎年、夏休みには各地の博物館を訪問する。学芸員資格を取得する学生たちの「館務実習」先である。実習受け入れへのお礼を述べることに、実習指導のための訪問である。酷暑の時期だけに、大好きな博物館詣でとはいえ、辛いことこの上ない。だが、実習する学生はもちろん、受け入れ先の各博物館の担当者の御苦労のほどが身に沁みて感じられ、同時に、各地の博物館の展示や実情を知るまたとない機会となっている。さらに、行き帰りの電車での移動時間は貴重な読書時間である。今年、新幹線の中で新聞を広げていて、就職についての記事が目にとまった。ここ数年、企業などで能力給制度が取り入れられる傾向が強まっていたが、その弊害が認識され始めたという。チームワークが乱れることや、新人育成の阻害などである。とはいえ、昔の「年功序列型給与制度」が復活するわけではなさそうだ。資格課程を目指す学生諸君は、現場での実習の際、単に技術的知識を得るだけでなく、人との交流を心がけてもらいたい。それが社会人になったとき、大きな力になりそうだ。今年も秋が近づき、本誌の編集も終了する。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

2006年11月1日

資格課程年報編集委員会

編集委員長 内 田 欽 三
編 集 委 員 渡 部 光
 蔭 山 雅 博
 仲 川 恭 司

平成17年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成18年11月30日

編 集 専修大学
生田校舎 教務課 資格課程係
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1244
神田校舎 教務課・二部事務課
〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8
TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

U R L <http://www.senshu-u.ac.jp/School/shikaku/>

印 刷 株式会社 芳文社
〒194-0033 東京都町田市木曽町2320
TEL 042-792-3100



専修大学